（様式第10）

梨大医医事発 番　　2　　号
令和　　7 年　　10 月　　3 日

厚生労働大臣　　殿

開設者名　山梨大学医学部附属病院
国立大学法人山梨大学長
中村　和彦

山梨大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1　開設者の住所及び氏名

住所	〒400-8510　山梨県甲府市武田4-4-37
氏名	国立大学法人山梨大学　学長　中村　和彦

（注）　開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2　名称

山梨大学医学部附属病院

3　所在の場所

〒409-3898　山梨県中央市下河東1110番地
電話（　055　）　273　－　1111

4　診療科名

4－1　標榜する診療科名の区分

○	1	医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2	医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

（注）　上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2　標榜している診療科名

（1）内科

内科							
内科と組み合わせた診療科名等							
○	1呼吸器内科	○	2消化器内科	○	3循環器内科	○	4腎臓内科
○	5神経内科	○	6血液内科	○	7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			○	11リウマチ科
診療実績							

（注）　1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

（2）外科

外科							
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科	○	7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

（注）　1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

（3）その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科		12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

（注）　標榜している診療科名に○印を付けること。

（4）歯科

歯科	

歯科と組み合わせた診療科名					
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科

歯科の診療体制

（注）　1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

（5）（1）～（4）以外でその他に標榜している診療科名

1	病理診断科	2	リハビリテーショ	3	形成外科	4		5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

（注）　標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40				578	618

（単位：床）

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	331	180	468.5
歯科医師	7	10	14.4
薬剤師	51	1	51.8
保健師	0	0	0
助産師	37	8	42
看護師	720	93	776.1
准看護師	0	6	2.8
歯科衛生士	3	0	3
管理栄養士	14	1	15

職種	員数
看護補助者	46
理学療法士	23
作業療法士	7
視能訓練士	10
義肢装具士	0
臨床工学士	22
栄養士	2
歯科技工士	1
診療放射線技師	40

職種		員数
診療エックス線技師		0
臨床検査	臨床検査技師	60
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師		0
医療社会事業従事者		10
その他の技術員		12
事務職員		168
その他の職員		75

（注）　1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数（人）	専門医名	人数（人）
総合内科専門医	48	眼科専門医	8
外科専門医	34	耳鼻咽喉科専門医	10

精神科専門医	9	放射線科専門医	13
小児科専門医	17	脳神経外科専門医	8
皮膚科専門医	7	整形外科専門医	19
泌尿器科専門医	7	麻酔科専門医	31
産婦人科専門医	14	救急科専門医	10
		合計	235

（注） 1 報告書を提出する年度の10月１日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

８ 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 （ 木内 博之 ） 任命年月日 令和 5 年 4 月 1 日

安全管理担当副病院長（平成31年4月～令和5年3月） 安全管理委員会委員長（平成31年7月～令和5年3月）

９ 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
１日当たり平均入院患者数	449.2 人	5.9 人	455.1 人
１日当たり平均外来患者数	1,340.1 人	76.1 人	1,416.2 人
１日当たり平均調剤数	7,878 剤		
必要医師数	89.5 人		
必要歯科医師数	0.8 人		
必要薬剤師数	15 人		
必要（准）看護師数	269.3 人		

（注） 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	414.56 ㎡	鉄筋コンクリート	病床数	12 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	170.28 ㎡	病床数	14	床
	[移動式の場合]	台数	台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	29.41 ㎡			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	234 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	多項目自動分析装置(BM-6070(3台)、COBAS8000e801(2台)、ARCHITECT i2000、G1200他)、遠心機、検体搬送システム、フリーザー、保冷庫等		
細菌検査室	136 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	DxM1096マイクロスキャンWalkAway、バクテアラート3D、バクテックFX、US-3500、UF-5000、安全キャビネット、インキュベーター、遠心機、滅菌器、顕微鏡、フリーザー、保冷庫等		
病理検査室	281 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	(主な設備)高性能ﾃｨｯｼｭﾌﾟﾛｾｯｻｰ、ﾊﾟﾗﾌｨﾝ包理装置、自動染色装置、自動免疫染色装置、ｸﾘｵｽﾀｯﾄ、ﾏｸﾛ及びﾐｸﾛ写真撮影装置、ﾃﾞｨｰﾌﾟﾌﾘｰｻﾞ、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ顕微鏡、ﾌﾟｯｼｭﾌﾟﾙ式換気装置、安全ｷｬﾋﾞﾈｯﾄ、ｶｾｯﾄおよびﾌﾟﾚﾊﾟﾗｰﾄ印字ｼｽﾃﾑ、ﾊﾞｰﾁｬﾙｽﾗｲﾄﾞｼｽﾃﾑ		
病理解剖室	96 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	(主な設備)局所排気装置設置解剖室、バイオハザード対策セパレート型解剖台、解剖台用マクロ撮影装置、解剖台用層流給気照明装置、ﾌﾟｯｼｭﾌﾟﾙ流水洗槽、ﾌﾟｯｼｭﾌﾟﾙ多機能中央切り出し台、切り出し台用マクロ撮影装置、中央切り出し台用層流給気照明装置、床埋め込み式遺体計量器、上下2体式遺体保存冷蔵庫、解剖室映像観察システム、移動式固定臓器標本棚、高性能ﾃｨｯｼｭﾌﾟﾛｾｯｻｰ、ﾊﾟﾗﾌｨﾝ包理装置		
研究室	12,034 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	各種実験装置、解析装置		
講義室	4,788 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	5 室	収容定員	943 人
図書室	1,663 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	閲覧室3室, 学習室4室, 視聴覚室1室, 閉架書庫1室 室	蔵書数	100,364 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	94.2 %	逆紹介率	74.8 %
算出根拠	A:紹介患者の数	15,254	人
	B:他の病院又は診療所に紹介した患者の数	13,298	人
	C:救急用自動車によって搬入された患者の数	1,499	人
	D:初診の患者の数	17,785	人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (〇を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
矢野　真	他団体医師	〇	臨床経験や医療安全に係る専門知識が豊富であるため。	無	1
甲光　俊一	弁護士		弁護士として医療過誤事例に携わっており、専門知識が豊富なため。	無	1
望月　智	市長		地方行政の長として、住民の意見の集約する職にあり、医療を受ける者の代表として意見を述べることができるため。	無	2

(注)　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法 大学ホームページ上で公表	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数（人）
先進医療A タイムラプス撮像法による受精卵・胚培養	136人
先進医療A 子宮内膜受容態検査	0人
先進医療A 子宮内膜擦過術	10人
先進医療A 子宮内膜刺激術	62人
先進医療A 子宮内膜細菌叢検査1	0人
先進医療A 子宮内膜細菌叢検査2	22人
先進医療A 膜構造を用いた生理学的精子選択術	16人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	7
取扱い患者数の合計（人）	246人

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	
取扱い患者数の合計（人）	0人

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

（注）1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

（注）2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること（当該医療が先進医療の場合についても記入すること）。

その他の高度医療の種類の合計数	
取扱い患者数の合計（人）	0

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	12	56	サルコイドーシス	37
2	筋萎縮性側索硬化症	30	57	特発性間質性肺炎	28
3	進行性核上性麻痺	8	58	肺動脈性肺高血圧症	8
4	パーキンソン病	76	59	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	1
5	大脳皮質基底核変性症	2	60	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	17
6	シャルコー・マリー・トゥース病	1	61	網膜色素変性症	13
7	重症筋無力症	56	62	原発性胆汁性胆管炎 旧病名（原発性胆汁性肝硬変）	16
8	多発性硬化症／視神経脊髄炎	77	63	原発性硬化性胆管炎	2
9	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	15	64	自己免疫性肝炎	18
10	多系統萎縮症	12	65	クローン病	40
11	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	33	66	潰瘍性大腸炎	49
12	ライソゾーム病	7	67	好酸球性消化管疾患	3
13	ミトコンドリア病	3	68	CFC症候群	1
14	もやもや病	27	69	先天性ミオパチー	1
15	全身性アミロイドーシス	22	70	マリネスコ・シェーグレン症候群	1
16	神経線維腫症	10	71	筋ジストロフィー	7
17	天疱瘡	12	72	先天性無痛無汗症	1
18	膿疱性乾癬（汎発型）	8	73	レット症候群	1
19	高安動脈炎	9	74	結節性硬化症	6
20	巨細胞性動脈炎	5	75	類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）	3
21	結節性多発動脈炎	6	76	特発性後天性全身性無汗症	2
22	顕微鏡的多発血管炎	11	77	マルファン症候群	6
23	多発血管炎性肉芽腫症	7	78	エーラス・ダンロス症候群	1
24	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	15	79	ウィルソン病	3
25	悪性関節リウマチ	3	80	ウィリアムズ症候群	1
26	バージャー病	3	81	歌舞伎症候群	1
27	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	82	22q11.2欠失症候群	1
28	全身性エリテマトーデス	151	83	総動脈幹遺残症	1
29	皮膚筋炎／多発性筋炎	73	84	完全大血管転位症	1
30	全身性強皮症	31	85	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	2
31	混合性結合組織病	16	86	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1
32	シェーグレン症候群	11	87	両大血管右室起始症	2
33	成人スチル病	11	88	急速進行性糸球体腎炎	1
34	再発性多発軟骨炎	1	89	抗糸球体基底膜腎炎	1
35	ベーチェット病	31	90	一次性ネフローゼ症候群	21
36	特発性拡張型心筋症	21	91	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1
37	肥大型心筋症	4	92	紫斑病性腎炎	3
38	再生不良性貧血	19	93	間質性膀胱炎（ハンナ型）	3
39	自己免疫性溶血性貧血	2	94	肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性）	1
40	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3	95	フェニルケトン尿症	1
41	特発性血小板減少性紫斑病	41	96	尿素サイクル異常症	1
42	血栓性血小板減少性紫斑病	1	97	家族性地中海熱	2
43	原発性免疫不全症候群	5	98	強直性脊椎炎	10
44	IgA 腎症	28	99	巨大静脈奇形（頚部口腔咽頭びまん性病変）	1
45	多発性嚢胞腎	17	100	先天性赤血球形成異常性貧血	1
46	黄色靱帯骨化症	21	101	後天性赤芽球癆	2
47	後縦靱帯骨化症	44	102	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	1
48	広範脊柱管狭窄症	3	103	胆道閉鎖症	2
49	特発性大腿骨頭壊死症	12	104	IgG4関連疾患	7
50	下垂体性ADH分泌異常症	7	105	若年発症型両側性感音難聴	1
51	下垂体性TSH分泌亢進症	1	106	好酸球性副鼻腔炎	79
52	下垂体性PRL分泌亢進症	8	107	特発性血栓症（遺伝性血栓性素因によるものに限る。）	2
53	クッシング病	3	108	特発性多中心性キャッスルマン病	5
54	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	12	109		
55	下垂体前葉機能低下症	39	110		

（注）「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	108
合計患者数（人）	1,510

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（基本診療料）

施設基準の種類	施設基準の種類
・情報通信機器を用いた診療	・報告書管理体制加算
・特定機能病院入院基本料1.一般病棟イ（7対1）	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・特定機能病院入院基本料3.精神病棟ハ（13対1）	・ハイリスク妊娠管理加算
・救急医療管理加算	・ハイリスク分娩管理加算
・超急性期脳卒中加算	・呼吸ケアチーム加算
・診療録管理体制加算2	・術後疼痛管理チーム加算
・医師事務作業補助体制加算1（25対1）	・バイオ後続品使用体制加算
・急性期看護補助体制加算 25対1（看護補助者5割以上）	・病棟薬剤業務実施加算1
・（夜間100対1急性期看護補助体制加算）	・病棟薬剤業務実施加算2
・（夜間看護体制加算）	・データ提出加算
・（看護補助体制充実体制加算1）	・入退院支援加算1
・看護職員夜間配置加算（12対1）1	・（入院時支援加算）
・看護補助加算2（50対1）	・認知症ケア加算1
・療養環境加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・重症者等療養環境特別加算	・精神疾患診療体制加算
・無菌治療室管理加算1	・精神科急性期医師配置加算2のイ
・無菌治療室管理加算2	・排尿自立支援加算
・放射線治療病室管理加算（治療用放射性同位元素による場合）	・地域医療体制確保加算
・放射線治療病室管理加算（密封小線源による場合）	・特定集中治療室管理料1
・緩和ケア診療加算	・（算定上限日数に係る）
・精神科身体合併症管理加算	・（小児加算）
・精神科リエゾンチーム加算	・（早期離床・リハビリテーション加算）
・栄養サポートチーム加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・医療安全対策加算1	・新生児治療回復室入院医療管理料
・感染対策向上加算1	・小児入院医療管理料2
・（指導強化加算）	・（プレイルーム加算）
・患者サポート体制充実加算	・（養育支援体制加算）
・重症者初期支援充実加算	・入院時食事療養／生活療養（Ｉ）
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・歯科外来診療安全体制加算2
・歯科外来診療感染体制加算3	・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療料）

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・腹腔鏡下肺切除術（区間切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・糖尿病合併症管理料	・胸腔鏡下肺切除術（区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・がん性疼痛緩和指導管理料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・がん患者指導管理料イ	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（気管支形成を伴う肺切除）
・がん患者指導管理料ロ	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・がん患者指導管理料ハ	・食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膣腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
・がん患者指導管理料ニ	・経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
・外来緩和ケア管理料	・胸腔鏡下弁形成術
・移植後患者指導管理料（臓器移植後）	・胸腔鏡下弁置換術
・移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）	・経カテーテル弁置換術（経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術）
・糖尿病透析予防指導管理料	・経皮的僧帽弁クリップ術
・小児運動器疾患指導管理料	・不整脈手術 左心耳閉鎖術（経カテーテル的手術によるもの）
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・経皮的中隔心筋焼灼術
・婦人科特定疾患治療管理料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・一般不妊治療管理料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
・生殖補助医療管理料 1	・両心室ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）及び両心室ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合）
・二次性骨折予防継続管理料1	・植込型除細動器移植術（心筋リードを用いるもの）及び植込型除細動器交換術（心筋リードを用いるもの）
・二次性骨折予防継続管理料3	・植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経静脈電極抜去術
・下肢創傷処置管理料	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（心筋電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（心筋電極の場合）
・外来放射線照射診療料	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）
・外来腫瘍化学療法診療料1	・大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
・（連携充実加算）	・経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
・（薬物療法体制充実加算）	・経皮的下肢動脈形成術
・療養・就労両立支援指導料	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）

・(相談支援加算)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・がん治療連携計画策定料	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・肝炎インターフェロン治療計画料	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・外来排尿自立指導料	・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・薬剤管理指導料	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・医療機器安全管理料 1	・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・医療機器安全管理料 2	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・在宅血液透析指導管理料	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・腹腔鏡下肝切除術
・持続血糖測定器加算 (間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・持続血糖測定器加算 (間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・遺伝学的検査	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・流産検体を用いた絨毛染色体検査(染色体検査)	・腹腔鏡下膵中央切除術
・骨髄微小残存病変量測定	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
・BRCA1／2遺伝子検査	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・がんゲノムプロファイリング検査	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・先天性代謝異常症検査	・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・HPV核酸検出及び HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・同種死体腎移植術
・国際標準検査管理加算	・生体腎移植術
・遺伝カウンセリング加算	・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
・胎児心エコー法	・尿道狭窄グラフト再建術
・ヘッドアップティルト試験	・人工尿道括約筋植込・置換術
・皮下連続式グルコース測定	・精巣温存手術
・長期継続頭蓋内脳波検査	・精巣内精子採取術
・神経学的検査	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・補聴器適合検査	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・ロービジョン検査判断料	・腹腔鏡下仙骨膣固定術
・小児食物アレルギー負荷検査	・腹腔鏡下仙骨膣固定術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・内服・点滴誘発試験	・腹腔鏡下腟式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・経頸静脈的肝生検	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・CT透視下気管支鏡検査加算	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
・経気管支凍結生検法	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る。）
・画像診断管理加算4	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・遠隔画像診断	・体外式膜型人工肺管理料
・CT撮影及びMRI撮影	・尿道形成手術（前部尿道）（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）
・冠動脈CT撮影加算	・尿道下裂形成手術（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・陰茎形成術（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）
・心臓MRI撮影加算	・陰茎全摘術（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）
・乳房MRI撮影加算	・精巣摘出術（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）
・小児鎮静下MRI撮影加算	・会陰形成手術（筋層に及ばないもの）（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）
・頭部MRI撮影加算	・造腟術、腟閉鎖症術（遊離植皮によるもの、腸管形成によるもの、筋皮弁移植によるもの）（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）
・全身MRI撮影加算	・子宮全摘術（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）
・肝エラストグラフィ加算	・腹腔鏡下腟式子宮全摘術（性同一性障害患者に対して行う場合に限る。）
・外来化学療法加算1	・子宮附属器腫瘍摘出術（両側）（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）
・無菌製剤処理料	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1
・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。）
・がん患者リハビリテーション料	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術）
・治療抵抗性統合失調症治療指導管理料	・輸血管理料Ⅱ
・医療保護入院等診療料	・コーディネート体制充実加算

・処置の休日加算1 (医科点数表第2章第9部処置の通則の 5に掲げる処置の休日加算1)	・自己生体組織接着剤作成術
・処置の時間外加算1 (医科点数表第2章第9部処置の通則の 5に掲げる処置の時間外加算1)	・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
・処置の深夜加算1 (医科点数表第2章第9部処置の通則の 5に掲げる処置の深夜加算1)	・同種クリオプレシピテート作製術
・硬膜外自家血注入	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・人工腎臓	・麻酔管理料(Ⅰ)
・導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・麻酔管理料(Ⅱ)
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・放射線治療専任加算
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・外来放射線治療加算
・ストーマ合併症加算	・高エネルギー放射線治療
・皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算	・1回線量増加加算
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の 場合に限る。)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・人工股関節置換術(手術支援装置を用いるもの)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・定位放射線治療
・椎間板内酵素注入療法	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・緊急穿頭血腫除去術	・画像誘導密封小線源治療加算
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・保険医療機関間の連携による病理診断
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・デジタル病理画像による病理診断
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便過活動膀胱)	・病理診断管理加算2
・角結膜悪性腫瘍切除手術	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜	・外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・看護職員処遇改善評価料76
・緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・入院ベースアップ評価料84
・緑内障手術(濾過胞再建術(needle 法))	・医療機器安全管理料(歯科)
・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	・有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査
・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・有床義歯咀嚼機能検査2のロ及び咬合圧検査
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅴ型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る。)	・精密触覚機能検査

・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む）	・歯科口腔リハビリテーション料2
・内喉頭筋内注入術（ボツリヌス毒素によるもの）	・口腔粘膜処置
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）、内視鏡下副甲状腺（上皮小体）腺腫過形成手術	・歯科技工士連携加算 1及び光学印象歯科技工士連携加算
・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法	・CAD／CAM冠及び CAD／CAMインレー
・乳房切除術（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）	・レーザー機器加算
・乳腺悪性腫瘍手術（乳癌センチネルリンパ節生検加算1又は乳癌センチネルリンパ節生検加算2を算定する場合に限る。）	・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）	・上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）
・乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・口腔病理診断管理加算2
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・歯科外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ）

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

（注）1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
（注）2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療（当該病院において提供していたものに限る。）から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	(1.)臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1. 乳腺症例検討会（12回、2023.10より毎月開催） 2. 婦人科症例検討会 （0回 中断中） 3. 呼吸器症例検討会 （49回、2023.9より毎週開催） 4. 皮膚科症例検討会 （48回 毎週開催） 5. 解剖マクロカンファレンス（16回 不定期開催） 6. 消化管カンファレンス（11回 毎月開催） 7. 脳外科カンファレンス（9回 毎月開催） 8. 肝生検カンファレンス（0回 不定期開催） 9. 病院CPC （13回 不定期開催）	
剖検の状況	剖検症例数（例）	17
	剖検率（%）	4

（注）1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する（〇で囲む等）こと。
（注）2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
糖尿病患者の唾液メタボローム解析による膵癌早期診断の可能性に関する研究	川井田　博充	消化器外科、乳腺・内分泌外科	1,040,000	補	(独)日本学術振興会
新規腎臓オルガノイドを用いた細胞アッセイへの応用	内村　幸平	腎臓内科	130,000	補	(独)日本学術振興会
血縁者間造血細胞移植ドナーの心理的経験	大島　智恵	看護部	910,000	補	(独)日本学術振興会
臨死期のがん患者が死に至る病態解明に関する研究	飯嶋　哲也	麻酔科	130,000	補	(独)日本学術振興会
骨軟部肉腫におけるマクロファージによる腫瘍微小環境の調節と新規治療開発	市川　二郎	整形外科	1,300,000	補	(独)日本学術振興会
肉腫と血小板の相互作用による増殖・転移誘導とその分子機構を標的とした治療法の開発	谷口　直史	リハビリテーション科	1,040,000	補	(独)日本学術振興会
自閉スペクトラム症に併存する限局性学習症の病態解明とその支援法の確立	加賀　佳美	小児科	780,000	補	(独)日本学術振興会
ヘモグロビン糖化の個人差に基づく糖尿病合併症リスク管理指標の開発	望月　美恵	小児科	1,300,000	補	(独)日本学術振興会
小児ネフローゼ症候群の保護者に対するヘルスリテラシー調査と課題	沢登　恵美	小児科	520,000	補	(独)日本学術振興会
小児難治性腫瘍におけるmitotic slippageの克服	合井　久美子	小児科	1,430,000	補	(独)日本学術振興会
GDF15-GFRALシグナルの亢進は小児慢性腎臓病患者の食行動に影響するか	後藤　美和	小児科	130,000	補	(独)日本学術振興会
双極性障害における細胞内カルシウム恒常性異常と時計遺伝子の関連解析	上村　拓治	精神科	1,170,000	補	(独)日本学術振興会
産後うつ支援における新規検査手法の開発	小林　慶太	精神科	1,430,000	補	(独)日本学術振興会
非アルコール性脂肪疾患における中鎖脂肪酸の効果と遺伝子発現解析による病態解明	古屋　信二	消化器外科、乳腺・内分泌外科	520,000	補	(独)日本学術振興会
胸腹部大動脈瘤におけるマクロファージのオートファジー機構の役割	古藤田　眞和	麻酔科	1,170,000	補	(独)日本学術振興会
人工心肺が惹起する急性炎症と認知機能障害に対する経鼻インスリンの効果と機序の解明	川上　亜希子	麻酔科	1,040,000	補	(独)日本学術振興会
女性ホルモンによる腸内細菌を介した免疫細胞制御機構の解明	吉野　修	産科婦人科	1,300,000	補	(独)日本学術振興会
難治性過活動膀胱に対する新規治療標的の探索	吉良　聡	泌尿器科	1,170,000	補	(独)日本学術振興会
大脳における排尿関連細胞の選択的操作とそのプロファイルの探究	志村　寛史	泌尿器科	1,040,000	補	(独)日本学術振興会
原発開放隅角緑内障発症進行メカニズムの解明－遺伝子多型と視野障害の関係－	間渕　文彦	眼科	1,300,000	補	(独)日本学術振興会
急増する小児アレルギー性鼻炎の発症リスク因子と発症機序の解明に向けた研究	櫻井　大樹	頭頸部・耳鼻咽喉科	390,000	補	(独)日本学術振興会
血小板による肺線維化増悪機構の統合的解明と臨床応用に向けた基礎的検討	築地　長治	検査部	1,560,000	補	(独)日本学術振興会
iPS細胞由来巨核球が産生する血小板を活用したヒトCLEC-2の機能解析	大石　沙織	検査部	1,300,000	補	(独)日本学術振興会
甲状腺濾胞パターン腫瘍のゲノム・エピゲノム変動に基づく層別化診断の確立	近藤　哲夫	病理診断科	65,000	補	(独)日本学術振興会

キセノン・水素・アルゴンガスの脳保護効果と組み合わせによる脳保護効果の増強	石山　忠彦	手術部	780,000	補	(独)日本学術振興会
C型肝炎ウイルス排除後の病態を修飾する"細胞老化"の分子生物学的検討と臨床応用	前川　伸哉	消化器内科	1,560,000	補	(独)日本学術振興会
心臓線維芽細胞の老化と心不全：心臓線維芽細胞の再生と移植による新規心不全治療	渡辺　陽介	消化器内科	1,300,000	補	(独)日本学術振興会
遺伝子改変ウサギモデルを用いた血管内視鏡による大動脈疾患・臓器障害の病態解明	佐藤　明	消化器内科	1,820,000	補	(独)日本学術振興会
SHINGEN-HFシステムによる心不全ネットワーク・心不全レジストリーの構築	中村　和人	消化器内科	1,040,000	補	(独)日本学術振興会
間葉系幹細胞由来細胞外小胞による腎障害の抑制機序	中島　歩	腎臓内科	1,430,000	補	(独)日本学術振興会
予後不良なTCF3::HLF陽性急性リンパ性白血病の抗がん剤耐性を克服する治療の開発	赤羽　弘資	新生児集中治療部	1,430,000	補	(独)日本学術振興会
ヒト表皮自然免疫細胞の同定，機能解析	小川　陽一	皮膚科	910,000	補	(独)日本学術振興会
中鎖脂肪酸はメタボリック肝発癌に抑制的に働くか：疾患モデルを用いた生化学的検討	細村　直弘	消化器外科、乳腺・内分泌外科	1,690,000	補	(独)日本学術振興会
マクロファージ分化制御による椎間板変性の治療法の開発	波呂　浩孝	整形外科	1,690,000	補	(独)日本学術振興会
質量分析装置を用いたくも膜下出血後の遅発性脳虚血に対するバイオマーカーの検討	橋本　幸治	脳神経外科	1,300,000	補	(独)日本学術振興会
心筋虚血再灌流障害に対するGLP-1の濃度依存性の心保護作用の解明	大宮　啓輔	麻酔科	1,430,000	補	(独)日本学術振興会
子宮内膜症により卵子の質が低下するメカニズムの解明	小川　達之	産婦人科	1,820,000	補	(独)日本学術振興会
卵細胞質機能低下に起因する妊孕性低下の治療法の開発に向けた基礎的検討	深澤　宏子	産婦人科	1,300,000	補	(独)日本学術振興会
長期大規模コホート研究による小児眼構造・視機能の発達と眼疾患発症因子と対策の検討	柏木　賢治	眼科	1,430,000	補	(独)日本学術振興会
ミエロイド系細胞のオートファジーに着目した慢性炎症性眼疾患の治療法の検討	古藤田　優実	眼科	1,430,000	補	(独)日本学術振興会
タキサン系抗がん剤を用いた頭頸部がん複合がん免疫化学療法の治療戦略構築	石井　裕貴	耳鼻咽喉科・頭頚外科	1,430,000	補	(独)日本学術振興会
SARS-CoV-2による血小板血栓の形成メカニズムの解析	佐々木　知幸	検査部	1,820,000	補	(独)日本学術振興会
エンドカンナビノイドシステムが介在するうつ病の易罹患性とストレス脆弱性を検証する	石黒　浩毅	遺伝子疾患診療センター	2,080,000	補	(独)日本学術振興会
脳梗塞神経幹細胞移植治療におけるA2アストロサイトの分化制御機序と役割の解明	若井　卓馬	脳神経外科	260,000	補	(独)日本学術振興会
高齢心不全患者におけるマイオカインのバイオマーカーとしての臨床的有用性の検討	植松　学	循環器内科	910,000	補	(独)日本学術振興会
ULP型大動脈解離における血行力学的予後因子の解明	城野　悠志	放射線治療科、放射線診断科	910,000	補	(独)日本学術振興会
血小板を介した新たな胃癌進展機序の解明と、新たな術中転移抑制剤の開発	庄田　勝俊	消化器外科、乳腺・内分泌外科	1,170,000	補	(独)日本学術振興会
Mesenchymal barrierの制御を標的とした頭頸部がん治療戦略	坂本　要	頭頸部・耳鼻咽喉科	910,000	補	(独)日本学術振興会
悪性IPMNの診断能向上と病態解明を目指した網羅的miRNA解析	深澤　佳満	消化器内科	1,430,000	補	(独)日本学術振興会
クロザピン抵抗性統合失調症に対するDAAO阻害と脳内グルタミン酸	岩田　祐輔	精神科	2,080,000	補	(独)日本学術振興会
脳型脂肪酸結合蛋白質制御が脳梗塞後神経幹細胞移植治療に及ぼす効果の検討	福田　憲人	脳神経外科	1,300,000	補	(独)日本学術振興会
がん悪液質によるグリコカリックス破壊と体液貯留の機序の解明	熊倉　康友	麻酔科	390,000	補	(独)日本学術振興会

マウス大脳における排尿回路の解明、排尿行動への応用	望月　孝規	泌尿器科	1,040,000	補	(独)日本学術振興会
高リスク加齢黄斑変性に対するブロルシズマブを用いた個別化医療の探求	菊島　渉	眼科	1,040,000	補	(独)日本学術振興会
小型深度カメラを用いた体表位置照合に基づく新規画像誘導放射線治療手法の開発	齋藤　正英	放射線治療科、放射線診断科	650,000	補	(独)日本学術振興会
好中球を標的とした重症薬疹の治療機序解明と治療戦略の創出	木下　真直	皮膚科	650,000	補	(独)日本学術振興会
術前化学療法後膵癌組織を用いた網羅的miRNA解析による新たな視点からの病態解明	早川　宏	消化器内科	1,430,000	補	(独)日本学術振興会
TAVI後の末梢塞栓症：血流維持型汎用血管内視鏡を用いた発症機序の解明	吉崎　徹	循環器内科	1,430,000	補	(独)日本学術振興会
中枢性思春期早発症におけるインプリンティング異常の関与の解明	成澤　宏宗	小児科	1,950,000	補	(独)日本学術振興会
迅速血清成分分析ならびに機械学習を用いた新たな乳がん診断システムの開発	中山　裕子	消化器外科、乳腺・内分泌外科	1,430,000	補	(独)日本学術振興会
膵癌の局所進展・局所領域再発おける、癌周囲支持細胞としての血小板の役割の解明	齊藤　亮	消化器外科、乳腺・内分泌外科	2,080,000	補	(独)日本学術振興会
胃癌関連線維芽細胞の分化過程に着目した新規治療薬およびバイマーカーの開発応用	滝口　光一	消化器外科、乳腺・内分泌外科	1,430,000	補	(独)日本学術振興会
腫瘍随伴マクロファージと肉腫の相互作用に基づく新規治療法の開発	田中　伸樹	整形外科	1,170,000	補	(独)日本学術振興会
子宮内膜症におけるCLEC-2/Podoplaninの関与の解明と治療戦略	白井　俊光	検査部	1,300,000	補	(独)日本学術振興会
甲状腺腫瘍における細胞小器官の形態形成システムの解明	井上　朋大	病理診断科	1,040,000	補	(独)日本学術振興会
深層学習生成モデルを応用した病理疑似染色法の確立と実用性の検証	川井　将敬	病理診断科	1,040,000	補	(独)日本学術振興会
「オーラルフレイル」予防の口腔ケアを高齢者に促す対話ロボットの開発と実証	馬場　菜安奈	臨床研究連携推進部	910,000	補	(独)日本学術振興会
大規模コホートおよび網羅的遺伝子解析による甲状腺未分化癌新規サブグループの解明	大舘　徹	病理診断科	2,470,000	補	(独)日本学術振興会
大規模コホートおよび網羅的遺伝子解析による甲状腺未分化癌新規サブグループの解明	大西　洋	放射線医学講座	7,150,000	補	(独)日本学術振興会
1分子ロングリードシークエンス技術を用いたB型・C型肝炎ウイルス欠失変異体の解析	山内　小津枝	消化器内科	1,820,000	補	(独)日本学術振興会
Pulsed Fieldによる難治性不整脈を安全に治療する革新的アブレーション法の開発	黒木　健志	循環器内科	1,690,000	補	(独)日本学術振興会
脱細分化を指向した肺癌の新たな治療戦略の提案	副島　研造	呼吸器内科	1,690,000	補	(独)日本学術振興会
急性腎障害に対する間葉系幹細胞由来細胞外小胞を用いた治療法の開発	高橋　和也	腎臓内科	1,820,000	補	(独)日本学術振興会
脳梗塞後組織修復における血小板エクソソームの分子病態機構解明	上野　祐司	神経内科	1,300,000	補	(独)日本学術振興会
GRP78の発現異常は骨髄増殖性腫瘍の血栓性病態を誘導するか？	桐戸　敬太	血液・腫瘍内科	2,080,000	補	(独)日本学術振興会
超広域同期アストロサイト活動の阻害によるてんかん発作治療法の探索	佐野　史和	小児科	1,430,000	補	(独)日本学術振興会
穿孔性細菌性腹膜炎に続発する多臓器障害でexosomeは主要因子となるか？	河野　寛	消化器外科、乳腺・内分泌外科	1,690,000	補	(独)日本学術振興会
GLP-1受容体からみたイリドイド配糖体の心筋虚血再灌流障害に対する心保護作用の解明	小口　健史	麻酔科	2,730,000	補	(独)日本学術振興会
ラクトフェリンによる脳梗塞増悪防止メカニズム	三井　一葉	麻酔科	2,080,000	補	(独)日本学術振興会
機械学習を利用したシバリングの検出	和田　啓一	麻酔科	1,170,000	補	(独)日本学術振興会

陰茎勃起システム再生に向けた陰茎海綿体の起源と恒常性維持機構の解明	相川　純輝	泌尿器科	1,690,000	補	(独)日本学術振興会
高浸潤性口腔癌におけるシスプラチン耐性化機序の解明と多面的な治療法の開発	吉澤　邦夫	歯科口腔外科	2,340,000	補	(独)日本学術振興会
敗血症性臓器障害と免疫麻痺の治療戦略探究におけるサイトカインプロファイルの応用	高三野　淳一	集中治療部	2,470,000	補	(独)日本学術振興会
EBVに注目した節外性NK/T細胞リンパ腫の精細な空間的トランスクリプトーム解析	大石　直輝	病理診断科	2,080,000	補	(独)日本学術振興会
繰り返しリキッドバイオプシーによる進行消化器癌の病態解明	倉富　夏彦	消化器内科	1,820,000	補	(独)日本学術振興会
肝癌リキッドバイオプシーにおける超高感度TERT promoter変異検出法の開発	村岡　優	消化器内科	2,340,000	補	(独)日本学術振興会
遺伝子改変ウサギと光音響イメージングを用いた末梢臓器障害の病態解明	堀越　健生	循環器内科	2,990,000	補	(独)日本学術振興会
高悪性度消化器癌におけるmicroRNA発現解析とその分子機序の解明	丸山　傑	消化器外科、乳腺・内分泌外科	2,340,000	補	(独)日本学術振興会
血小板を介した、胃癌腹膜播種に対する新規腹腔内治療法の開発応用	仲山　孝	消化器外科、乳腺・内分泌外科	2,340,000	補	(独)日本学術振興会
ヒトリラキシンホルモンを用いた難治性着床異常に対する妊娠予後の改善戦略	小野　洋輔	産婦人科	1,560,000	補	(独)日本学術振興会
口腔癌におけるEMT転写因子とEtsファミリータンパク質の役割	市川　舞	歯科口腔外科	2,080,000	補	(独)日本学術振興会
リアルワールドデータを用いた機械学習による薬剤耐性菌発生予測モデルの構築	荘司　智和	薬剤部	2,080,000	補	(独)日本学術振興会
モデルマウスを用いたSPG80の発症メカニズム及び治療法の解明について	下園　啓介	薬剤部	1,430,000	補	(独)日本学術振興会
大規模住民コホートの追跡による頚椎アライメントの自然経過の解明と診断基準の開発	小田　洸太郎	整形外科	520,000	補	(独)日本学術振興会
腸内細菌の細胞外小胞による進行肝硬変の再生不全の機序解明と予防・治療法開発	土屋　淳紀	消化器内科	3,900,000	補	(独)日本学術振興会
実世界に埋め込まれる人間中心の人工知能技術の研究開発	川井　将敬	病理診断科	4,805,000	委	国立研究開発法人産業技術総合研究所
テイラーメイドエクソソームによる脳梗塞新規治療の開発	上野　祐司	神経内科	9,009,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
電子カルテ情報活用型多施設症例データベースを利用した糖尿病に関する臨床情報収集に関する研究(J-DREAMS)	土屋　恭一郎	糖尿病・内分泌内科	500,000	委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター
ウイルス性肝炎の薬剤耐性が及ぼす病態変化及びその治療に関する研究	鈴木　雄一朗	消化器内科	800,000	委	武蔵野赤十字病院
次世代シークエンス技術を基盤としたC型肝炎ウイルス排除後における肝癌出現機序・病態変化の解明とバイオマーカーの開発	榎本　信幸	消化器内科	18,380,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
インターフェロンフリー治療がC型肝硬変患者の予後を含めたアウトカムに与える影響を明らかにする研究	榎本　信幸	消化器内科	1,040,000	委	国立大学法人大阪大学
HBVトランスクリプトームを基軸としたHBV病態の診断と完全克服	榎本　信幸	消化器内科	1,300,000	委	国立大学法人東京科学大学
B型肝炎培養細胞、抗ウイルス応答細胞モデルを用いた創薬シーズ化合物の大規模探索	榎本　信幸	消化器内科	5,200,000	委	国立大学法人北海道大学
肝線維化の非侵襲的評価のための糖鎖バイオマーカーの探索と検査系実用化に関する研究	前川　伸哉	消化器内科	1,300,000	委	国立大学法人北海道大学
C型肝炎治療後の長期予後を規定する因子の解析とその対策に関する研究	前川　伸哉	消化器内科	650,000	委	国立大学法人広島大学
性分化疾患・性成熟疾患の治療成績向上に向けたエビデンス創出	三井　貴彦	泌尿器科	1,040,000	委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
IRUD 拠点病院としての先天異常症候群領域の症例収集、臨床的検討、モデル動物の開発による病態解明	矢ヶ崎　英晃	小児科	5,200,000	委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
持続可能で先進的なてんかん医療と遠隔医療を用いたデータベースの確立に関する研究	加賀　佳美	小児科	500,000	委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

造影病変全切除可能な初発膠芽腫に対する標準的手術法確立に関する研究	木内　博之	脳神経外科	260,000	委	国立大学法人山形大学
早期非小細胞肺癌に対する体幹部定位放射線治療線量増加ランダム化比較試験	大西　洋	放射線治療科、放射線診断科	390,000	委	国立大学法人広島大学
血小板機能異常と慢性炎症で起こる着床不全に対する新規治療法開発	吉野　修	産婦人科	2,600,000	委	東京大学医学部附属病院
重症不妊症患者に対するタクロリムスの多施設共同2用量単群比較試験	吉野　修	産婦人科	390,000	委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
NEDO経済安全保障重要技術育成プログラム／有事に備えた止血製剤製造技術の開発・実証／汎用性の高い人工血小板の開発	井上　克枝	検査部	871,000	委	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
放射線療法の提供体制構築に資する研究	大西　洋	放射線治療科、放射線診断科	915,000	補	厚生労働省
医療安全支援センターの機能評価及び質改善のためのICTを用いた地域連携と情報収集の体制構築に関する研究	荒神　裕之	医療の質・安全管理部	1,104,000	補	厚生労働省
看護職員の需給推計方法の妥当性の検証と推計のためのシナリオの検討	小林　美亜	病院経営管理部	806,000	補	厚生労働省
重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	小川　陽一	皮膚科	1,000,000	補	厚生労働省
運動失調症の医療水準、患者QOLの向上に資する研究班	瀧山　嘉久	神経内科	700,000	補	厚生労働省
スモンに関する調査研究	新藤　和雅	神経内科	300,000	補	厚生労働省
多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究	佐藤　光明	消化器内科	300,000	補	厚生労働省
原発性脂質異常症に関する調査研究	土橋　一重	小児科	200,000	補	厚生労働省
各都道府県におけるアレルギー疾患医療連携体制構築に関する研究	櫻井　大樹	頭頸部・耳鼻咽喉科	300,000	補	厚生労働省

計122件

（注）1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申 請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、〇印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Yamauchi K, Maekawa S, Osawa L, et al	消化器内科	Single-molecule sequencing of the whole HCV genome revealed envelope deletions in decompensated cirrhosis associated with NS2 and NS5A mutations.	J Gastroenterol. 2024 Nov;59(11):1021-1036.	Original Article
2	Ma YH, Maekawa S, Takano S, et al	消化器内科	Elevated nuclear expression of ZHX1 correlates with poor prognosis in hepatocellular carcinoma (HCC): Comparison of nuclear and cytoplasmic distribution of the ZHX family in HCC cells.	Hepatol Res. 2024 Aug 29.	Original Article
3	Hasegawa H, Fukasawa M, Takano S, et al	消化器内科	New Surgical Criteria for Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm Based on the Age-Adjusted Charlson Comorbidity Index Values and Presence of Solid Component.	Diagnostics (Basel). 2024 Nov 17;14(22):2582. (オンライン)	Original Article
4	Takada H, Osawa L, Komiyama Y, et al	消化器内科	Interleukin-7 Risk Allele, Lymphocyte Counts, and Autoantibodies for Prediction of Risk of Immune-Related Adverse Events in Patients Receiving Atezolizumab plus Bevacizumab Therapy for Unresectable Hepatocellular Carcinoma.	Oncology. 2025;103(1):37-47.	Original Article
5	Suzuki Y, Maekawa S, Osawa L, et al	消化器内科	Evaluation of weight loss and improvement of steatotic liver disease using magnetic resonance imaging in patients with metabolic dysfunction associated steatotic liver disease.	Hepatol Res. 2025 May;55(5):638-647.	Original Article
6	Nakakuki N, Maekawa S, Takano S, et al	消化器内科	TCR Repertoire Analysis During Therapeutic Interventions in Liver Diseases Using Next-Generation Sequencing.	J Gastroenterol Hepatol. 2025 Feb;40(2):537-547.	Original Article
7	Yagasaki M, Kitta Y, Horikoshi T, et al	循環器内科	Short-term recurrent takotsubo cardiomyopathy associated with severe hyponatremia due to syndrome of inappropriate antidiuretic hormone secretion.	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2024 Dec 31;26(1):171.	Original Article
8	Kuroki K, Sato A	循環器内科	Editorial to "Efficacy and safety of pulsed-field versus conventional thermal ablation for atrial fibrillation: A systematic review and meta-analysis".	J Arrhythm. 2024 Aug 22;40(5):1075-1076. (オンライン)	Original Article
9	Horikoshi T, Kobayashi T, Sato A	循環器内科	Angioscopic evaluation of the efficacy of a new excimer laser in in-stent occlusion of a drug eluting stent.	Eur Heart J. 2024 Nov 21;45(44):4767.	Original Article
10	Horikoshi T, Nakamura T, Yamada R, et al	循環器内科	Association between carotid plaque progression and persistent endothelial dysfunction in an infarct-related coronary artery in STEMI survivors.	Heart Vessels. 2025 Jan;40(1):36-46.	Original Article
11	Kawamura H, Yoshizaki T, Sato A	循環器内科	Stuck leaflet after transcatheter aortic valve implantation due to calcium chunk in a patient with bicuspid valve.	Eur Heart J Case Rep. 2024 Jun 7;8(6):ytae275. (オンライン)	Case Report

12	Asahina C, Kuroki K, Tanaka Y, et al	循環器内科	Life-Threatening Cardiac Tamponade Caused by Perforation of an Accessory Left Atrial Appendage During Mitral Isthmus Ablation.	CJC Open. 2025 Jan 17;7(3):277-278. (オンライン)	Original Article
13	Eguchi M, Watanabe Y, Uemastu M, et al	循環器内科	Vasospastic angina in a young female-to-male transsexual.	Eur Heart J Case Rep. 2025 Jan 23;9(2):ytaf026. (オンライン)	Case Report
14	Kobayashi T, Horikoshi T, Yoshizaki T, et al	循環器内科	Successful Retrieval of Rota Burr After Driveshaft Fracture.	Case Rep Cardiol. 2024 Jun 17;2024:5482922. (オンライン)	Case Report
15	Yamaguchi K, Nakamura T, Kobayashi T, et al	循環器内科	Aortic tortuosity and pacemaker requirement after transcatheter aortic valve replacement: Mediating effects of anatomical variations.	J Cardiol. 2025 Apr;85(4):334-335.	Letter
16	Kuroki K, Tada H	循環器内科	Catheter ablation using pulsed-field energy: Advantages and limitations compared with conventional energy.	J Arrhythm. 2025 Feb 4;41(1):e70011. (オンライン)	Original Article
17	Ichikawa Y, Watanabe Y, Irie K, et al	循環器内科	Decreased Homeostasis Model Assessment of I2-Cell Function in Patients Without Diabetes Can Predict Future Events in Patients With Cardiovascular Disease.	Circ J. 2025 Feb 25;89(3):347-353.	Original Article
18	Yamada R, Uematsu M, Nakamura T, et al	循環器内科	Elevated eicosapentaenoic acid to arachidonic acid ratio and rapid coronary blood flow restoration in ST-elevation myocardial infarction.	Hellenic J Cardiol. 2025 Jan 22:S1109-9666(25)00003-X.	Letter
19	Sudo K, Kuroki K, Nakamura K, et al	循環器内科	Novel technique and assessment of available 3-dimensional delivery sheath for endomyocardial biopsy during cardiac device implantation.	Heart Rhythm. 2025 Apr;22(4):998-1007.	Original Article
20	Kawamura H, Nakamura K, Sato A	循環器内科	Asymptomatic female heterozygous Fabry disease diagnosed through medical check-up.	Eur Heart J. 2024 Nov 7;45(41):4447.	Original Article
21	Sudo K, Nakamura K, Sato A	循環器内科	Usefulness of endomyocardial biopsy using three-dimensional delivery system for the diagnosis of cardiac amyloidosis with complete atrioventricular block after transcatheter aortic valve implantation.	Eur Heart J. 2024 Jun 1;45(21):1957.	Case Report
22	Sudo K, Kuroki K, Asakawa T, et al	循環器内科	A Novel Wave-speed Mapping Method for Visualizing Accessory Pathways in Wolff-Parkinson-White Syndrome.	J Cardiovasc Electrophysiol. 2025 Feb;36(2):401-410.	Original Article
23	Sudo K, Kuroki K, Yamauchi Y, et al	循環器内科	A novel ablation strategy of slow/fast atrioventricular nodal reentrant tachycardia targeting the atrial activation focusing point at the inferior Koch's triangle: Identification of entrance site of slow pathway using high-resolution 3D mapping	J Arrhythm. 2025 Feb 7;41(1):e70019. (オンライン)	Original Article
24	Ichikawa Y, Kobayashi T, Sato A	循環器内科	Optical coherence tomography-based management of coronary plaque erosion following immune checkpoint inhibitors.	Eur Heart J. 2025 Mar 24;46(12):1169.	Original Article

25	Ando R,Uematsu M,Nakamura T, et al	循環器内科	Combined Assessment of Skeletal Muscle Area Using Computed Tomography in Elderly Patients with Aortic Valve Stenosis Undergoing Transcatheter Aortic Valve Replacement.	International Heart Journal. 2025;66(1):51-59.	Original Article
26	Ichikawa Y,Watanabe Y, et al	循環器内科	Combined Assessment of Skeletal Muscle Area Using Computed Tomography in Elderly Patients with Aortic Valve Stenosis Undergoing Transcatheter Aortic Valve Replacement.	International Heart Journal. 2025;66(1):51-59.	Original Article
27	Horikoshi T, Nakamura T, Sato A, et al	循環器内科	Low levels of homeostasis model assessment of β-cell function in patients without diabetes can predict future events in patients with cardiovascular disease.	CIRCULATION JOURNAL. 2025;89 (3):347 - 353	Original Article
28	Horikoshi T, Nakamura T, Sato A, et al	循環器内科	Association between carotid plaque progression and persistent endothelial dysfunction in an infarct-related coronary artery in STEMI survivors	HEART AND VESSELS. 2025 Jan;40(1):36-46.	Original Article
29	Kobayashi T, Horikoshi T, Yoshizaki T, et al	循環器内科	Predictive Value of CHADS2, CHA2DS2-VASc and R2-CHADS2 Scores for Short- and Long-Term Major Adverse Cardiac Events in Non-ST-Segment Elevation Myocardial Infarction	CIRCULATION JOURNAL. 2024 Jul 25;88(8):1246-1253.	Original Article
30	Sudo K,Uematsu M,Nakamura K, et al	循環器内科	Successful Retrieval of Rota Burr After Driveshaft Fracture	Case Reports in Cardiology. 2024 Jun 17;2024:5482922.	Case Report
31	Nakagomi D	循環器内科	Impact of left bundle branch area pacing-optimized cardiac resynchronized therapy for transthyretin cardiac amyloidosis	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2024 Apr 30;25(5):e156.	Case Report
32	Shimamura S, Morikawa H, Shinohara K, et al	呼吸器内科	A case of autoimmune pulmonary alveolar proteinosis responding to oral statin therapy.	Respir Med Case Rep. 2024 May 25;50:102042. (オンライン)	Case Report
33	Ohkoshi H, Saiki M, Takahashi N, et al	呼吸器内科	A case of organizing pneumonia in rearranged during transfection fusion-positive lung adenocarcinoma treated with selpercatinib.	Thorac Cancer. 2024 Sep;15(25):1863-1866.	Case Report
34	Shimamura S, Takahashi N, Homma K, et al	呼吸器内科	Endobronchial Aspergilloma.	Respirol Case Rep. 2025 Feb 18;13(2):e70121. (オンライン)	Original Article
35	Mochizuki K, Oishi N, Tahara I, et al	呼吸器内科	Influence of serum IL-36 subfamily cytokines on clinical manifestations of asthma	J Allergy Clin Immunol Glob. 2025 Jan 18;4(2):100419.	Original Article
36	Komai S, Harai N, Tahara I, et al	糖尿病・内分泌内科	Resolution of Breast Cancer in a Patient With Thyroid Stimulating Hormone-Secreting Pituitary Neuroendocrine Tumor With the Combination of Chemotherapy and Lanreotide.	Cureus. 2024 Aug 5;16(8):e66221. (オンライン)	Case Report
37	Harai N, Hanai S, Hosokawa T, et al	糖尿病・内分泌内科	Tertiary adrenal insufficiency in a patient with familial Mediterranean fever: Association or coincidence?	Arch Rheumatol. 2024 May 5;39(2):314-316. (オンライン)	Original Article

38	Uchinuma H, Tsuchiya K, Horiuchi S, et al	糖尿病・内分泌内科	Advanced maternal age elevates the prevalence of hypertensive disorders in women of Japanese, independent of blood pressure: a study from the Japan Environment and Children's study	Hypertens Res. 2025 Mar;48(3):904-913.	Original Article
39	Shimba R, Hanai S, Ito R, et al	糖尿病・内分泌内科	Isolated adrenocorticotropic hormone deficiency manifested after COVID-19.	J Infect Chemother. 2025 Apr;31(4):102635.	Case Report
40	Uchinuma H, Matsushita M, Tanahashi M, et al	糖尿病・内分泌内科	Post-hoc analysis of the tofogliflozin post-marketing surveillance study (J-STEP/LT): Tofogliflozin improves liver function in type 2 diabetes patients regardless of BMI.	J Diabetes Investig. 2025 Apr;16(4):615-628.	Original Article
41	Ishii R, Harai N, Hosokawa T, et al	糖尿病・内分泌内科	Reduction of Ovarian Cysts After Endoscopic Surgery for Follicle-Stimulating Hormone-Producing Pituitary Adenoma.	JCEM Case Rep. 2024 Dec 6;2(12):luae231. (オンライン)	Case Report
42	Okuma H, Tsutsumi T, Ichijo M, et al	糖尿病・内分泌内科	Factors Involved in the Development of Diabetic Kidney Disease in Patients With Slowly Progressive Type 1 Diabetes Mellitus: A Retrospective Cohort Study.	Cureus. 2024 Oct 8;16(10):e71055. (オンライン)	Original Article
43	Okuma H, Tsuchiya K	糖尿病・内分泌内科	Tissue-specific activation of insulin signaling as a potential target for obesity-related metabolic disorders.	Pharmacol Ther. 2024 Oct;262:108699.	Original Article
44	Harai N, Okuma Hm Tsuchiya K, et al	糖尿病・内分泌内科	Increased Steps in Japanese Older Adults Associated with Improved Winter Sleep Quality.	Gerontol Geriatr Med. 2024;10:1-9.	Original Article
45	Noda S, Harai N, Komai S, et al	糖尿病・内分泌内科	Rapid improvement of severe fatty liver in a case of fulminant type 1 diabetes following insulin treatment.	Diabetol Int. 2023;15(2):297-301.	Original Article
46	Inukai T, Harai N, Nakagawa Y, et al	糖尿病・内分泌内科	Subclinical Cushing's Disease with High-Molecular-Weight Forms of Adrenocorticotropic Hormone Production.	Case Rep Endocrinol.	Original Article
47	Tsutsumi T, Nakagomi D, Kobayashi K, et al	糖尿病・内分泌内科	Moon-like Facies by Glucocorticoid Is Associated With the Development of Diabetes and Body Image Disturbance.	J Endocr Soc. 2024;8(5):bvae036.	Original Article
48	Ueda M, Uchimura K, Ohkoshi K, et al	腎臓内科	A Severe Case of Rhabdomyolysis Requiring Renal Replacement Therapy Following COVID-19 mRNA Vaccination.	Intern Med. 2025 May 15;64(10):1547-1551.	Case Report
49	Yoshida S, Sato Y, Naganuma T, et al	腎臓内科	Risk Factors for Internal Jugular Vein Thrombosis 1 Month After Non-Cuffed Hemodialysis Catheter Removal.	J Clin Med. 2024 Dec 13;13(24):7579. (オンライン)	Original Article
50	Kubota S, Hanai S, Tanaka-Mabuchi N, et al	リウマチ膠原病内科	Is it possible to use avacopan alone in the induction of remission in ANCA-associated vasculitis?	Rheumatol Adv Pract. 2024 Aug 24;8(3):rkae100. (オンライン)	Case Report

51	Nakagomi D, Shimizu T, Furuta S, et al	リウマチ膠原病内科	Comparison and Significance of Contrast-Enhanced Computed Tomographic Findings of Large-Vessel Vasculitis Before and After Treatment: Differences Between Takayasu Arteritis and Giant Cell Arteritis.	Eur J Rheumatol. 2024 Oct 14;11(3):371-377.	Original Article
52	Stanko S, Hanai S, Tanaka-Mabuchi N, et al	リウマチ膠原病内科	Acute digital ischemia due to lupus vasculitis successfully treated with anifrolumab.	Int J Dermatol. 2025 Jun;64(6):1117-1119.	Letter
53	Hanai S, Kobayashi Y, Watanabe M, et al	リウマチ膠原病内科	Improvement of proteinuria by upadacitinib in a patient with refractory lupus membranous nephropathy.	Rheumatology (Oxford). 2025 Mar 1;64(3):1548-1549.	Original Article
54	Ito R, Hanai S, Watanabe M, et al	リウマチ膠原病内科	Generalized Pustular Psoriasis (von Zumbusch).	Am J Med. 2024 Oct;137(10):e186-e187.	Case Report
55	Hanai S, Kobayashi Y, Watanabe M, et al	リウマチ膠原病内科	Clinical Characteristics of Anti-Neutrophil Cytoplasmic Antibody-Associated Vasculitis Patients Proven by Muscle Biopsy and Its Relevance to Kidney Involvement.	Nephrology (Carlton). 2025 Mar;30(3):e70021.	Original Article
56	Nakagomi D, Hanai S	リウマチ膠原病内科	Rapid improvement of rheumatoid arthritis symptoms with ozoralizumab: a case of progress monitored by musculoskeletal ultrasonography.	Scand J Rheumatol. 2025 May;54(3):217-218.	Original Article
57	Watanabe M, Nakagomi D, Ito R, et al	リウマチ膠原病内科	Case report: Two cases of granulomatosis with polyangiitis in long-term drug-free remission with rituximab.	Int J Rheum Dis. 2024 Nov;27(11):e15395.	Letter
58	Kubota S, Kobayashi Y, Hanai S, et al	リウマチ膠原病内科	Rapidly progressive digital necrosis in polyarteritis nodosa.	Rheumatol Adv Pract. 2024 Dec 24;9(1):rkae153. (オンライン)	Original Article
59	Hanai S, Nakagomi D, Suzuki K, et al	リウマチ膠原病内科	Renal protective roles of macrophage matrix metalloproteinase-12 in mice with obstructed kidneys.	Int J Exp Pathol. 2024 Oct;105(5):193-201.	Original Article
60	Kobayashi Y, Sakai K, Tran NQV, et al	リウマチ膠原病内科	IL-33 Sensitizes Mast Cells to PIEZO1 Stimulation Leading to Degranulation.	Allergy. 2024 Dec;79(12):3517-3520.	Letter
61	Chen Zhe,Suzuki,T, Mochizuki Z, Takahashi H, et al	リウマチ膠原病内科	Power Doppler ultrasonography findings of eosinophilic fasciitis.	Rheumatol Adv Pract. 2024 May 22;8(3)	Original Article
62	Ueno Y, Morishima Y, Hata T, et al	神経内科	Current progress in microRNA profiling of circulating extracellular vesicles in amyotrophic lateral sclerosis: A systematic review.	Neurobiol Dis. 2024 Oct 1;200:106639.	Original Article
63	Morishima Y, Hata T, Nakajima S, et al	神経内科	Case report: Atypical case of autoimmune glial fibrillary acidic protein astrocytopathy following COVID-19 vaccination refractory to immunosuppressive treatments.	Front Immunol. 2024 Apr 11;15:1361685. (オンライン)	Case Report
64	Kasai S, Akahane K, Tamai M,et al	神経内科	Parkinson's disease complicated after 12years foom the onset of multple sclerosis.	Neurol Sci 2024 Apr,45(4): 1775-1778	Letter

65	Kirito K, Sugimoto Y, Gotoh A, et al	血液・腫瘍内科	Long-term safety and efficacy of ropeginterferon alfa-2b in Japanese patients with polycythemia vera.	Int J Hematol. 2024 Dec;120(6):675-683.	Original Article
66	Kirito K, Qin A, Suo S, et al	血液・腫瘍内科	Ropeginterferon alfa-2b shows anti-polycythaemia vera activity without causing clinically significant anaemia.	BJC Rep. 2024 Jul 11;2(1):51. (オンライン)	Letter
67	Watanabe D, Okamoto N, Kobayashi Y, et al	小児科	Biallelic structural variants in three patients with ERCC8-related Cockayne syndrome and a potential pitfall of copy number variation analysis.	Sci Rep. 2024 Aug 26;14(1):19741. (オンライン)	Case Report
68	Nguyen TT, Tamai M, Harama D, et al	小児科	Sensitivity to Tyrosine Kinase Inhibitors in a Human Philadelphia Chromosome-Positive (Ph+) Leukemia Model With the T315I-Inclusive Compound Mutation.	Cureus. 2024 Dec 28;16(12):e76538. (オンライン)	Original Article
69	Tamai M, Komatsu C, Kagami K, et al	小児科	Utility of a Large Series of B-Cell Precursor Acute Lymphoblastic Leukemia Cell Lines as a Model System.	Cancer Med. 2025 Mar;14(5):e70736.	Original Article
70	Watanabe A, Tipgomut C, Totani H, et al	小児科	Noncanonical TCA cycle fosters canonical TCA cycle and mitochondrial integrity in acute myeloid leukemia.	Cancer Sci. 2025 Jan;116(1):152-163.	Original Article
71	Hasebe Y, Yokota S, Fukushi I, et al	小児科	Persistence of post-stress blood pressure elevation requires activation of astrocytes.	Sci Rep. 2024 Oct 3;14(1):22984. (オンライン)	Original Article
72	Narusawa H, Ogawa T, Yagasaki H, et al	小児科	Comprehensive Study on Central Precocious Puberty: Molecular and Clinical Analyses in 90 Patients.	J Clin Endocrinol Metab. 2025 Mar 17;110(4):1023-1036.	Original Article
73	Kanai H, Sawanobori E, Kobayashi A, et al	小児科	Pediatric Bilateral Hypoplastic Kidney Complicated With C1q Nephropathy: A Case Report.	Cureus. 2024 Jul 5;16(7):e63923. (オンライン)	Case Report
74	Watanabe D, Yagasaki H, Narusawa H, et al	小児科	Coinheritance of HNF1A and glucokinase variants in maturity-onset diabetes of the young.	Endocrinol Diabetes Metab Case Rep. 2024 Aug 1;2024(3):23-0100. (オンライン)	Original Article
75	Watanabe D, Tsujioka Y, Nakato D, et al	小児科	Digital clubbing without hypoxia for lysinuric protein intolerance.	Eur J Med Genet. 2024 Oct;71:104967.	Case Report
76	Watanabe A, Wang L, Tan TK, et al	小児科	Acquired copy number amplification at the MYC enhancer in human B-precursor acute lymphoblastic leukemia cell lines.	Cancer Sci. 2024 Sep;115(9):3196-3199.	Original Article
77	Dobashi K	小児科	Japanese Diagnostic Criteria for Pediatric Familial Hypercholesterolemia 2022.	J Atheroscler Thromb. 2024 Jul 1;31(7):1026-1028.	Original Article

78	Watanabe D, Yagasaki H, Narusawa H, et al	小児科	16p13.11 microduplication with growth retardation and developmental disorders: a case report and literature review.	Nagoya J Med Sci. 2025 Feb;87(1):144-149.	Case Report
79	Takahashi K, Nguyen TTT, Watanabe A, et al	小児科	Involvement of BCR::ABL1 in laminin adhesion of Philadelphia chromosome-positive A?acute lymphoblastic leukemia through upregulation of integrin I±6.	Cancer Rep (Hoboken). 2024 Apr;7(4):e2034.	Original Article
80	Kanai H, Goto M, Kobayashi A, et al	小児科	Low-Dose Prednisolone for the Prevention of Recurrent Relapses in Nephrotic Syndrome Triggered by Regular Hospital Visits: A Case Report.	Cureus. 2025 Mar 26;17(3):e81247. (オンライン)	Case Report
81	Kim H, Akahane K, Tamai M, et al	小児科	Unique Presentation of Autoinflammatory Disease-like Symptoms and Development of Leukemic Cell Lysis Pneumopathy in Childhood KMT2A::LASP1 -positive Acute Monocytic Leukemia.	J Pediatr Hematol Oncol. 2025 Apr 1;47(3):135-139.	Case Report
82	Kanemura H, Miyasato Y, Tomi Y, et al	小児科	Usefulness of perampanel as initial monotherapy in children with non-lesional focal epilepsy.	Epilepsy Behav Rep. 2025 Jan 30;29:100743. (オンライン)	Original Article
83	Watanabe D, Hasebe Y, Yagasaki H, et al	小児科	Brain calcification in congenital heart defects and ectodermal dysplasia (CHDED).	Eur J Med Genet. 2025 Feb;73:104992.	Case Report
84	Saito T, Mochizuki M, Kobayashi K, et al	小児科	Impact of the severe acute respiratory syndrome coronavirus 2 pandemic on the incidence of type 1 diabetes mellitus in children in Yamanashi, Japan.	Sci Rep. 2025 Jan 2;15(1):484. (オンライン)	Original Article
85	Kasai S, Tamai M, Sugihara E, et al	小児科	Dose-dependent tumor regression during sirolimus therapy in an advanced juvenile nasopharyngeal angiofibroma case.	Pediatr Int. 2024 Jan-Dec;66(1):e15807.	Case Report
86	RYO SAITO, HIROMICHI KAWAIDA, WATARU IZUMO,et al.	小児科	In utero tumor development and identification of CTNNB1 mutation in a newborn case of ossifying renal tumor of infancy.	Pediatr Blood Cancer. 2024 Apr;71(4):e30868.	Case Report
87	Kubota R, Uchino T, Okubo R, et al	精神科	Factor structure of social cognition in schizophrenia: Investigation of four core domains.	Schizophr Res. 2025 Apr;278:26-34.	Original Article
88	Shimada S	皮膚科	Pioneers in Dermatology and Venereology: An interview with Professor Shinji Shimada.	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2025 Feb;39(2):265-268.	Original Article
89	Ogawa Y, Maejima E, Takeichi T, et al	皮膚科	Generalized pustular psoriasis patient with a heterozygous hypomorphic MPO variant refractory to intravenous spesolimab.	J Dermatol. 2025 Jan;52(1):167-170.	Case Report
90	Muto Y, Ogawa Y, Okamoto T, et al	皮膚科	Efficacy of immune checkpoint inhibitors in patients with metastatic extramammary Paget's disease: Report of two cases and literature review.	J Dermatol. 2024 Dec;51(12):e444-e445.	Letter

91	Muto Y, Okamoto T, Ogawa Y, et al	皮膚科	A case of Pott's puffy tumor arising during treatment with lenvatinib and denosumab.	J Dermatol. 2025 Jan;52(1):e41-e42.	Letter
92	Kinoshita M, Ogawa Y, Shimada S, et al	皮膚科	Intravenous immunoglobulin inhibits neutrophil extracellular traps in Stevens-Johnson syndrome/toxic epidermal necrolysis.	J Dermatol. 2025 Mar;52(3):565-566.	Original Article
93	Tomita O, Iwasaki M, Mitsui H, et al	皮膚科	Two cases of hydroa vacciniforme lymphoproliferative disorder in elderly patients: Excellent response to narrow-band ultraviolet B phototherapy.	JAAD Case Rep. 2024 Nov 29;55:111-115. (オンライン)	Case Report
94	Maruyama S, Kawaguchi Y, Akaike H, et al	消化器外科	Comparison of the influence of postoperative oral nutritional supplementation between octogenarian and non-octogenarian patients undergoing gastrectomy for cancer.	World J Surg Oncol. 2024 Oct 8;22(1):267. (オンライン)	Original Article
95	Maruyama S, Shoda K, Kawaguchi Y, et al	消化器外科	Impact of postoperative infectious complications on long-term prognosis after esophagectomy.	World J Surg. 2025 Jan;49(1):253-261.	Original Article
96	Maruyama S, Kawaguchi Y, Nitta K, et al	消化器外科	Changes in and clinical utility of maximum phonation time and repetitive saliva swallowing test scores after esophagectomy.	Esophagus. 2024 Jul;21(3):348-356.	Original Article
97	Izumo W, Kawaida H, Saito R, et al	消化器外科	Evaluation of the validity of pancreatoduodenectomy for octogenarian patients with biliary tract carcinoma from the perspective of recurrence.	Scand J Gastroenterol. 2025 Apr;60(4):312-321.	Original Article
98	Izumo W, Kawaida H, Saito R, et al	消化器外科	Evaluation of the details and importance of lymphatic, microvascular, and perineural invasion in patients with non-functioning pancreatic neuroendocrine neoplasms based on tumor size and the 2022 World Health Organization classification: a	World J Surg Oncol. 2025 Mar 8;23(1):79. (オンライン)	Original Article
99	Higuchi Y, Maruyama S, Shoda K, et al	消化器外科	Prognostic significance and risk factors of mediastinal lymph node metastasis in esophagogastric junction cancer: a single-center, retrospective study.	Langenbecks Arch Surg. 2024 Nov 13;409(1):346. (オンライン)	Original Article
100	Nakayama T, Saito R, Furuya S, et al	消化器外科	Molecular mechanisms driving the interactions between platelet and gastric cancer cells during peritoneal dissemination.	Oncol Lett. 2024 Aug 13;28(4):498. (オンライン)	Original Article
101	Mizukami A, Furuya S, Takiguchi K, et al	消化器外科	Intraoperative indocyanine green fluorescence for precise resection of nonocclusive mesenteric ischemia: a case report and diagnostic considerations based on pathology findings.	Surg Case Rep. 2024 Oct 4;10(1):230. (オンライン)	Original Article
102	Saito R, Kawaida H, Amemiya H, et al	消化器外科	Clinical significance of postoperative complications after pancreatic surgery in time-to-complication and length of postoperative hospital stay: a retrospective study.	Langenbecks Arch Surg. 2024 Jun 5;409(1):173. (オンライン)	Original Article
103	Ozawa T, Shoda K, Kawaguchi Y, et al	消化器外科	Laparoscopic Transhiatal Resection of an Esophageal Diverticulum in a Patient With Systemic Lupus Erythematosus: A Case Report.	Cureus. 2024 Aug 29;16(8):e68120. (オンライン)	Case Report

104	Matsutoka K, Shoda K, Higuchi Y, et al	消化器外科	Enhancing Preoperative Diagnosis Accuracy of Stage III Gastric Cancer with Circulating circRNAs.	Ann Surg Oncol. 2025 Jan;32(1):333-341.	Original Article
105	Shoda K, Kubota T, Kawaguchi Y, et al	消化器外科	Differences in glycemic trends due to reconstruction methods after proximal gastrectomy from the perspective of continuous glucose-monitoring.	Surg Today. 2024 Sep;54(9):1104-1111.	Original Article
106	Saito R, Amemiya H, Izumo W, et al	消化器外科	Prognostic Significance of Splenic Vein Invasion for Pancreatic Cancer Patients With Pancreatectomy: A Retrospective Study.	Anticancer Res. 2025 Feb;45(2):773-779.	Original Article
107	Furuya S, Shiraishi K, Shimizu H, et al	消化器外科	Intraluminal washout in rectal and sigmoid colon cancer surgeries with double-stapling technique anastomosis: A single-institution prospective study.	Ann Gastroenterol Surg. 2024 Aug 30;9(1):137-144. (オンライン)	Original Article
108	Takashi Nakayama , Katsutoshi Shoda , Kensuke Shiraishi ,et al	消化器外科	Re-consideration of Lymph Node Metastasis in Pancreatic Cancer Patients Following Radical Resection: A Retrospective Study	Anticancer Res .2024 May;44(5):2141-2149. doi: 10.21873/anticanres.17020.	Original Article
109	Mitsuto Hanihara, Tomoyuki Kawataki, Hirofumi Kazama, et al	消化器外科	Dynamics of perioperative pancreatic exocrine function in patients undergoing reconstruction after gastrectomy for gastric cancer	Surg Today .2024 May;54(5):436-441. doi: 10.1007/s00595-023-02746-1. Epub 2023 Sep 28.	Original Article
110	Sakakibara K, Nakajima H, Hagihara Y, et al	心臓血管外科	Evaluation of flow dynamics in distal stent graft-induced new entry using 4D flow MRI.	Clin Case Rep. 2024 Apr 4;12(4):e8739. (オンライン)	Case Report
111	Sakakibara K, Nakajima H, Nakamura K	心臓血管外科	Vortex flow and energy loss reflect the therapeutic effect of valve replacement and reverse remodelling in severe aortic regurgitation.	Eur Heart J Case Rep. 2025 Jan 16;9(2):ytaf017. (オンライン)	Case Report
112	Sakakibara K, Nakajima H, Yoshida Y, et al	心臓血管外科	Hemodynamic Analysis Using 4D Flow MRI in a Case of Aortic Dissection With Aberrant Right Subclavian Artery.	Clin Case Rep. 2025 Jan 5;13(1):e70067. (オンライン)	Original Article
113	Hara M, Honda Y, Kaga S, et al	心臓血管外科	A successful surgical repair for supravalvular aortic stenosis with a bicuspid valve and malpositioned coronary orifices by partial Brom's technique: a case report.	Surg Case Rep. 2024 Oct 24;10(1):242. (オンライン)	Original Article
114	Honda Y, Suzuki S, Kaga S, et al	心臓血管外科	A Re-do Repair of Tetralogy of Fallot With an Anomalous Coronary Artery Using a Valved Conduit for the Right Ventricular Outflow Tract Reconstruction.	Cureus. 2024 Jun 6;16(6):e61794. (オンライン)	Case Report
115	Ohba T, Tanaka N, Oda K, et al	整形外科	Impact of skeletal muscle mass of the trunk and extremities on standing spine parameters before and after surgery for adult spinal deformity with a minimum 2-year follow-up.	Eur Spine J. 2025 Mar;34(3):1026-1033.	Original Article
116	Ichikawa J, Kawasaki T, Onohara K	整形外科	Importance of Appropriate and Substantial Imaging and Pathological Information for Rare Conditions.	Malays Orthop J. 2025 Mar;19(1):131-132.	Letter

117	Mizukami K, Ohba T, Tanaka N, et al	整形外科	Incidence of Cervical Kyphosis and Factors Associated with Improvement in Postoperative Cervical Spinal Alignment in Idiopathic Scoliosis with Major Thoracolumbar/Lumbar and Thoracic Curves.	J Clin Med. 2024 Jun 28;13(13):3811. (オンライン)	Original Article
118	Tatsuno R, Komohara Y, Pan C, et al	整形外科	Surface Markers and Chemokines/Cytokines of Tumor-Associated Macrophages in Osteosarcoma and Other Carcinoma Microenviornments-Contradictions and Comparisons.	Cancers (Basel). 2024 Aug 8;16(16):2801. (オンライン)	Original Article
119	Taniguchi N, Ohba T, Jinno T, et al	整形外科	Preoperative Spinal Sagittal Alignment Affects Improvement of Locomotive Syndrome by Four Years After Total Hip Arthroplasty.	Cureus. 2025 Jan 12;17(1):e77326. (オンライン)	Original Article
120	Ohba T, Tanaka N, Oda K, et al	整形外科	Perioperative Dysphagia Considerations for Patients With Severe Cervical Spondylotic Myelopathy.	Global Spine J. 2025 Jan 30:21925682251318634.	Original Article
121	Tanaka N, Ohba T, Oda K, et al	整形外科	Factors affecting postoperative pelvic incidence reduction following surgery for adult spinal deformity.	Eur Spine J. 2025 Mar 11.	Original Article
122	Tomokazu Shoji, Manabu Akazawa, Nonoka Nakagomi et.al.	整形外科	Clinical Significance of Pose Estimation Methods Compared with Radiographic Parameters in Adolescent Patients with Idiopathic Scoliosis	Spine Surg Relat Res. 2024 Mar 11;8(5):485-493. doi: 10.22603/ssrr.2023-0269. eCollection 2024 Sep 27.	Original Article
123	Tanzawa A, Tateoka T, Yagi T, et al	脳神経外科	Spinal subarachnoid hematoma involving a thoracic ventral dural defect: illustrative case.	J Neurosurg Case Lessons. 2024 Oct 28;8(18):CASE24435. (オンライン)	Original Article
124	Baba N, Kawataki T, Taketani T, et al	脳神経外科	An Adult Case of Genetically Confirmed Hyperekplexia Presenting with Head Trauma.	NMC Case Rep J. 2024 Aug 30;11:237-241. (オンライン)	Case Report
125	Hirose Y, Yoshioka H, Hashimoto K, et al	脳神経外科	Posterior Clinoidectomy in the Subtemporal Transtentorial Approach for a Basilar Bifurcation Aneurysm: Technical Note.	World Neurosurg. 2025 May;197:123894.	Case Report
126	Yoshioka H, Wakai T, Hashimoto K, et al	脳神経外科	Iodine-123-Iomazenil Single-Photon Emission Computed Tomography Revealed Recovery of Neuronal Viability in Association With Improvement of Cognitive Dysfunction After Revascularization in Moyamoya Disease.	Neurosurgery. 2025 Mar 1;96(3):577-584.	Original Article
127	Yoshioka H, Kanemaru K, Hashimoto K, et al	脳神経外科	Treatment of Unruptured Large and Giant Carotid Cavernous Aneurysms in Japan at the Time of Flow Diverter Introduction: A Nationwide, Multicenter Survey by the Japanese Society on Surgery for Cerebral Stroke.	World Neurosurg. 2025 Mar;195:123629.	Original Article
128	Fukuda N, Yoshioka H, Ogiwara M, et al	脳神経外科	Optimized Bifrontal Craniotomy: Reducing Risks and Boosting Surgical Results.	World Neurosurg. 2025 Feb;194:123561.	Original Article
129	Kazama H, Hanihara M, Yoshimura K, et al	脳神経外科	Diagnostic Accuracy of Ambient Mass Spectrometry with Blood Plasma in a Murine Glioma Model Using Machine Learning.	World Neurosurg. 2025 Feb;194:123577.	Original Article

130	Kanemaru K, Yoshioka H, Hashimoto K, et al	脳神経外科	Treatment of Unruptured Large and Giant Paraclinoid Aneurysms in Japan at the Time of Flow Diverter Introduction: A Nationwide, Multicenter Survey by the Japanese Society on Surgery for Cerebral Stroke.	World Neurosurg. 2025 Mar;195:123571.	Original Article
131	Kawakami A, Sato H, Nakadate Y, et al	麻酔科	Cardioprotective effects of l-glutamine in an ischemic rat heart model.	Microvasc Res. 2025 Mar;158:104764.	Original Article
132	Ono Y, Kobayashi Y, Shimada S, et al	産婦人科	Uterine Endometrium Microbiome in Women with Repeated Implantation Failure Complicated by Endometriosis.	J Clin Med. 2024 Aug 7;13(16):4605. (オンライン)	Original Article
133	Yoshino O, Ono Y	産婦人科	The physiological role of macrophages in reproductive organs.	Reprod Med Biol. 2025 Feb 14;24(1):e12637. (オンライン)	Original Article
134	Yoshihara T, Okuda Y, Yoshino O	産婦人科	Diagnosis of arcuate uterus using three-dimensional transvaginal ultrasound and investigation of its association withA?perinatal complications.	Int J Gynaecol Obstet. 2025 Mar;168(3):1073-1078.	Original Article
135	Yoshihara T, Okuda Y, Yoshino O	産婦人科	Association of congenital uterine anomaly with abnormal placental cord insertion and adverse pregnancy complications: a retrospective cohort study.	J Matern Fetal Neonatal Med. 2024 Dec;37(1):2382309.	Original Article
136	Yoshihara T, Okuda Y, Yoshino O	産婦人科	Quantification of the size of subchorionic hematoma causing pregnancy-related complications: a retrospective cohort study.	J Med Ultrason (2001). 2024 Oct;51(4):649-654.	Original Article
137	Yoshihara T, Okuda Y, Ogi M, et al	産婦人科	Differences in perinatal complications and serum hormone levels due to uterine endometrial preparation methods in frozen-thawed embryo transfer.	J Obstet Gynaecol Res. 2024 Oct;50(10):1909-1915.	Original Article
138	Yoshihara T, Okuda Y, Owada S, et al	産婦人科	Maternal background and perinatal complications in MCI: A retrospective cohort study.	Placenta. 2025 Apr;163:29-32.	Original Article
139	Ueno M, Sawada N, Yano F, et al	泌尿器科	Aggressive Bladder Urothelial Carcinoma in an HIV-Positive Male With Neurogenic Bladder Dysfunction due to Spina Bifida: An Autopsy Case.	IJU Case Rep. 2025 Mar 25;8(3):261-265. (オンライン)	Original Article
140	Kira S, Sawada N, Mochizuki T, et al	泌尿器科	Utility of Retroperitoneal Laparoscopic Surgery for Retroperitoneal Tumors.	JSLS. 2024 Oct-Dec;28(4):e2024.00031.	Case Report
141	Shijo T, Fukui A, Sakurada Y, et al	眼科	Clinical and genetic characteristics of simple central serous chorioretinopathy according to age.	Ophthalmic Genet. 2025 Feb;46(1):25-30.	Original Article
142	Yoneyama S, Fukui A, Sakurada Y, et al	眼科	Genetic and Clinical Characteristics of Central Serous Chorioretinopathy With Steroid Use.	Cureus. 2024 Apr 20;16(4):e58631. (オンライン)	Original Article

143	Inada Y, Sakurada Y, Shijo T, et al	眼科	Familial Occurrence of a Severe Phenotype of Central Serous Chorioretinopathy in Two Brothers.	Cureus. 2024 Jul 1;16(7):e63557. (オンライン)	Case Report
144	Kikushima W, Furuhata Y, Shijo T, et al	眼科	Comparison of one-year real-world outcomes between red (670 nm) subthreshold micropulse laser treatment and intravitreal aflibercept injection for treatment-naA¯ve diabetic macular edema.	Photodiagnosis Photodyn Ther. 2025 Feb;51:104430.	Original Article
145	Kimura M, Sakurada Y, Fukuda Y, et al	眼科	Association of Polyp Regression after Loading Phase with 12-Month Outcomes of Eyes with Polypoidal Choroidal Vasculopathy.	Pharmaceuticals (Basel). 2024 May 27;17(6):687. (オンライン)	Original Article
146	Kotoda Y, Hishiyama S, Shim J, et al	眼科	A Novel Quaternary Ammonium N-Propylamiodarone Bromide Provides Long-Lasting Analgesia Against Corneal Pain.	Drug Des Devel Ther. 2024 Dec 20;18:6199-6208. (オンライン)	Original Article
147	Hosoda S, Sakurada Y, Fukuda Y, et al	眼科	Short-Term Outcomes of Three Consecutive Monthly Loading Administrations of Aflibercept 8 Mg for Treatment-NaA¯ve Exudative Age-Related Macular Degeneration.	Pharmaceuticals (Basel). 2025 Mar 20;18(3):438. (オンライン)	Original Article
148	Kinouchi A, Jubashi T, Tatsuno R, et al	頭頸部・耳鼻咽喉科	Roles of ZEB1 and ZEB2 in E-cadherin expression and cell aggressiveness in head and neck cancer.	Genes Cells. 2024 Dec;29(12):1131-1143.	Original Article
149	Shimamura A, Ishii H, Matsuoka T, et al	頭頸部・耳鼻咽喉科	Prevalence Survey on Oral Allergy Syndrome in Patients With Seasonal Allergic Rhinitis in Yamanashi, Japan.	Allergy. 2025 Mar;80(3):890-892.	Letter
150	Shimamura A, Shinohara R, Kushima M, et al	頭頸部・耳鼻咽喉科	Association of Japanese cedar pollen sensitization in children with Dermatophagoides pteronyssinus sensitization and maternal sensitization: Insights from the Yamanashi adjunct study within the Japan Environment and Children's Study (JECS).	Allergol Int. 2025 Apr;74(2):301-307.	Original Article
151	Watanabe D, Otawa S, Kushima M, et al	頭頸部・耳鼻咽喉科	Association between allergen-specific immunoglobulin E sensitization, allergic rhinitis symptoms, and quality of life in school-aged children.	Sci Rep. 2024 Dec 30;14(1):31940. (オンライン)	Original Article
152	Tozuka R, Johno H, Amakawa A, et al	放射線治療科・放射線診断科	Application of NotebookLM, a large language model with retrieval-augmented generation, for lung cancer staging.	Jpn J Radiol. 2025 Apr;43(4):706-712.	Original Article
153	Matsuda M, Komiyama T, Marino K, et al	放射線治療科・放射線診断科	Involved-field high-dose chemoradiotherapy with respiratory motion management for esophageal squamous cell carcinoma.	Thorac Cancer. 2024 Nov;15(33):2365-2374.	Original Article
154	Motosugi U, Watanabe H	放射線治療科・放射線診断科	Navigating Hemodynamic Insights: A Promising Future with Four-dimensional Flow MRI and Computational Fluid Dynamics in Transjugular Intrahepatic Portosystemic Shunt Management.	Radiology. 2024 Oct;313(1):e241857.	Original Article
155	Saito M, Kadoya N, Kimura Y, et al	放射線治療科・放射線診断科	Evaluation of deep learning based dose prediction in head and neck cancer patients using two different types of input contours.	J Appl Clin Med Phys. 2024 Dec;25(12):e14519.	Original Article

156	Saito M, Ueda K, Nemoto H, et al	放射線治療科・放射線診断科	Development of a phantom for assessing the precision of setup in skin mark-less surface-guided radiotherapy.	J Appl Clin Med Phys. 2024 Aug;25(8):e14381.	Original Article
157	Watanabe H, Arai H, Ogihara K, et al	放射線治療科・放射線診断科	Diagnostic efficacy of contrast-enhanced fluid-attenuated inversion recovery (FLAIR) imaging in idiopathic cerebrospinal fluid rhinorrhea.	Radiol Case Rep. 2024 Jul 26;19(10):4331-4334. (オンライン)	Case Report
158	Matsuda M, Ichikawa J, Komiyama T, et al	放射線治療科・放射線診断科	A bone tumor-like chest wall mass lesion with pathological rib fractures observed 13a?years after lung stereotactic body radiotherapy: A case report.	Thorac Cancer. 2024 Sep;15(26):1912-1916.	Case Report
159	Sasaki Y, Araki T, Ban M, et al	放射線治療科・放射線診断科	Structural comparison of N-butyl-2-cyanoacrylate-Lipiodol (NL) and N-butyl-2-cyanoacrylate-Lipiodol-Ethanol (NLE) using scanning electron microscope.	Jpn J Radiol. 2025 Feb 22.	Original Article
160	Morisaka H, Imaizumi A, Wumu T, et al	放射線治療科・放射線診断科	High-resolution 0.25A?mm Detector CT Has Limited Impact on Right Adrenal Vein Detectability in Preprocedural Contrast Enhanced CT for Adrenal Venous Sampling.	J Comput Assist Tomogr. 2025 Jan 27.	Original Article
161	Nemoto H, Saito M, Satoh Y, Komiyayam T, Marino K, et al	放射線治療科・放射線診断科	Delayed Abscopal Response 3 Years After Robotic Stereotactic Body Radiation Therapy for Renal Cell Carcinoma: A Case Report	Cancer Rep (Hoboken)	Case Report
162	Goto G, Ariga K, Tanaka N, et al	放射線治療科・放射線診断科	Evaluation of the performance of both machine learning models using PET and CT radiomics for predicting recurrence following lung stereotactic body radiation therapy: A single-institutional study	J Appl Clin Med Phys	Original Article
163	Ueki K, Dds KG, Dds TT, et al	歯科口腔外科	Association between condylar surface computed tomography values in the coronal plane and temporomandibular joint disc position in jaw deformity patients: a retrospective study.	Oral Maxillofac Surg. 2024 Nov 20;29(1):12. (オンライン)	Original Article
164	Kurosawa Y, Yoshizawa K, Moroi A, et al	歯科口腔外科	Practical Reconstructive Techniques Using the Transoral Approach to Segmental Mandibulectomy With Cosmofix: Technical Report.	J Craniofac Surg. 2024 Jul 18.	Original Article
165	Gomi K, Moroi A, Kohara R, et al	歯科口腔外科	Evaluation of Lower Lip Hypoesthesia Using Trigeminal Somatosensory Evoked Potential After Sagittal Split Ramus Osteotomy: Retrospective Study.	J Craniofac Surg. 2025 Jan 23.	Original Article
166	Ueki K, Gomi K, Yoshizawa K, et al	歯科口腔外科	Changes in computed tomography values and morphology of the condyle and glenoid fossa before and after orthognathic surgery in female jaw deformity patients.	J Craniomaxillofac Surg. 2025 May;53(5):446-453.	Original Article
167	Yoshizawa K, Yagi T, Uchida T, et al	歯科口腔外科	Concomitant pyogenic spondylodiscitis and empyema following tongue cancer resection and wisdom tooth extraction: A case report and literature review.	Medicine (Baltimore). 2024 Jul 26;103(30):e39087.	Case Report
168	Tran QNN, Moriguchi T, Ueno M, et al	救急科	Ambient Mass Spectrometry and Machine Learning-Based Diagnosis System for Acute Coronary Syndrome.	Mass Spectrom (Tokyo). 2024;13(1):A0147.	Original Article

169	Le MK, Tran NQV, Nguyen PT, et al	病理診断科	Comprehensive analysis of distinct circadian clock subtypes of adult diffuse glioma and their associations with clinicopathological, genetic, and epigenetic profiles.	J Neuropathol Exp Neurol. 2024 Sep 1;83(9):736-744.	Original Article
170	Niimi M, Chen Y, Zhao H, et al	病理診断科	Enhanced atherosclerosis in apolipoprotein E knockout rabbits: role of apoB48-rich remnant lipoproteins.	Front Cardiovasc Med. 2024 Jul 17;11:1424064. (オンライン)	Original Article
171	Chen Y, Zou J, Niimi M, et al	病理診断科	Matrix Metalloproteinase-9 Enhances Osteoclastogenesis: Insights from Transgenic Rabbit Bone Marrow Models and In Vitro Studies.	Int J Mol Sci. 2025 Mar 29;26(7):3194. (オンライン)	Original Article
172	Ichikawa J, Kawasaki T, Onohara K, et al	リハビリテーション科	Indolent Angiomatoid Fibrous Histiocytoma Mimicking a Benign Cystic Tumor.	Diagnostics (Basel). 2025 Jan 6;15(1):115. (オンライン)	Original Article
173	Ichikawa J, Kawasaki T, Onohara K, et al	リハビリテーション科	The novel role of MDM2 in the diagnosis and treatment of dedifferentiated liposarcoma.	Front Oncol. 2024 Oct 18;14:1466399. (オンライン)	Original Article
174	Ichikawa J, Kawasaki T, Onohara K, et al	リハビリテーション科	Diagnostic challenges in imaging and immunohistopathological profiles in extraskeletal osteosarcoma.	World J Surg Oncol. 2024 Nov 20;22(1):307. (オンライン)	Original Article
175	Ichikawa J, Imada H, Onohara K, et al	リハビリテーション科	Letter to the editor regarding the article "extramammary orbital myofibroblastoma: a rare orbital tumor".	Orbit. 2024 Oct;43(5):683-684.	Letter
176	Ichikawa J, Tashima T, Kawasaki T	リハビリテーション科	Nature of histopathology in atypical lipomatous tumor/well-differentiated liposarcoma diagnosis.	J Dig Dis. 2024 May;25(5):328-330.	Case Report
177	Wako M, Ichikawa J, Fujimaki T, et al	リハビリテーション科	Delayed Achilles Tendon Rupture at 17 Years of Age After Treatment of Clubfoot with Ponseti Method: A Case Report.	JBJS Case Connect. 2024 Jul 19;14(3). (オンライン)	Case Report
178	Ichikawa J, Ochiai S, Kawasaki T, et al	リハビリテーション科	Diagnostic Challenge of Localized Tenosynovial Giant Cell Tumor in Children.	Diagnostics (Basel). 2025 Jan 24;15(3):281. (オンライン)	Original Article
179	Ichikawa J, Kawasaki T, Onohara K, et al	リハビリテーション科	Significance of differential diagnosis for the elucidation of rare and complicated diseases.	Pediatr Rheumatol Online J. 2025 Feb 5;23(1):12. (オンライン)	Letter
180	Ichikawa J, Kawasaki T, Ochiai S, et al	リハビリテーション科	Recent advances in immunohistochemical and molecular profiling for differential diagnosis between giant cell-rich lesions and tenosynovial giant cell tumors.	Front Oncol. 2025 Jan 9;14:1511127. (オンライン)	Original Article
181	Haro H, Ohba T, Watanabe K, et al	リハビリテーション科	Intradiscal treatment with recombinant human MMP-7 for patients with lumbar disc herniation: A sham-controlled multicenter, single-blind, dose-escalation, single-dose, phase I/IIa study.	J Orthop Sci. 2025 Feb 25:S0949-2658(25)00040-5.	Original Article

182	Ichikawa J, Kawasaki T, Onohara K, et al	リハビリテーション科	Imaging, clinical, and histopathological challenges in diagnosing retroperitoneal extraskeletal osteosarcoma.	Front Oncol. 2025 Feb 26;15:1454055. (オンライン)	Original Article
183	Hagino T, Koizumi R, Hagino T, et al	リハビリテーション科	Helix meniscus - A novel anatomical discovery.	Knee. 2025 Jun;54:240-243.	Case Report
184	Wako M, Fujimaki T, Ichikawa J, et al	リハビリテーション科	Effects of outdoor play on body composition and physical performance in children: the Yamanashi Adjunct study of the Japan Environment and Children's Study.	PLoS One. 2025 Feb 10;20(2):e0317925. (オンライン)	Original Article
185	Tsukiji N, Yokomori R, Takusagawa K, et al	検査部	C-type lectin-like receptor-2 in platelets mediates ferric chloride-induced platelet activation and attenuates ferroptosis of endothelial cells.	J Thromb Haemost. 2024 Jun;22(6):1749-1757.	Original Article
186	Kazumasa Shindo. Yuto Morisima, et al	手術部	Cardioprotective effects of l-glutamine in an ischemic rat heart model	Microvascular Research. 2025 Mar (オンライン)	Original Article
187	Kawai M, Odate T, Kasai K, et al	病理部	Virtual multi-staining in a single-section view for renal pathology using generative adversarial networks.	Comput Biol Med. 2024 Nov;182:109149.	Original Article
188	Okuno H, Miura M, Oishi N, et al	病理部	Epstein-Barr virus-positive plasmacytoma in an immunocompetent female: A case report.	J Clin Exp Hematop. 2024;64(3):268-272.	Case Report
189	Mochizuki K, Tahara I, Inoue T, et al	病理部	GATA4 is diagnostically useful for distinguishing primary ovarian mucinous carcinomas from metastatic colorectal adenocarcinomas to the ovary.	Histol Histopathol. 2025 Feb;40(2):183-189.	Original Article
190	Mochizuki K, Oishi N, Tahara I, et al	病理部	Expression of TGF-I21 in Gastrointestinal Stromal Tumor (GIST) and the Occurrence of Frequent Desmoplasia.	Appl Immunohistochem Mol Morphol. 2024 May-Jun 01;32(5):229-232.	Original Article
191	Le MK, Kawai M, Masui K, et al	病理部	Glioma Image-Level and Slide-Level Gene Predictor (GLISP) for Molecular Diagnosis and Predicting Genetic Events of Adult Diffuse Glioma.	Bioengineering (Basel). 2024 Dec 27;12(1):12. (オンライン)	Original Article
192	Akiko Kawakami, Hiroaki Sato, Yosuke Nakadate, et al.	病理部	Expression of B7-H3 and B7-H4 in Gastric Gastrointestinal Stromal Tumors.	Appl Immunohistochem Mol Morphol. 2024 Nov-Dec 01;32(10):484-487.	Original Article
193	Shoji T, Akazawa M, Inoue O, et al	薬剤部	Trends in syphilis treatments and the impact of intramuscular injectable Benzathine penicillin G in Japan: A descriptive study using administrative claims data from April 2016 to September 2023.	J Infect Chemother. 2025 Mar;31(3):102586.	Original Article
194	Hoshino Y. Soma T, Nakagome K, et al	薬剤部	Trends of Strong and Weak Opioid Prescriptions in Japan: A Cross-Sectional Study Based on Open Data from the National Database and Hospital Claims Data from Fiscal Years 2015 to 2021.	Biol Pharm Bull. 2025;48(3):279-285.	Original Article

195	Tsukamoto H, Saito R, Shirakura T, et al	臨床教育部	Astroblastoma with MN1::BEND2 in an elderly patient: A case report and review of the literature.	Brain Tumor Pathol. 2024 Oct;41(3-4):151-154.	Letter	
196	Sato T, Asakawa R, Ogawa Y, et al	臨床研修センター	Numerical, phenotypic and functional differences in human dermal resident memory T cells between reticular dermal layers.	Skin Health Dis. 2024 Dec 1;4(6):e457. (オンライン)	Original Article	計196件

(注) 1　当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2　報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3　「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4　「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5　「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例:　Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9　/　Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6　「論文種別」欄には、Original Article、Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

(注) 1　当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

（様式第 3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3　高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1)倫理審査委員会の開催状況

①　倫理審査委員会の設置状況	有・無
②　倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・　手順書の主な内容 委員会の設置、組織、運営、審査・報告等資料、審査手順、迅速審査、重篤な有害事象発生時、報告事項、記録の保管・公表の手順等	
③　倫理審査委員会の開催状況	年１２回

（注）　1　倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に〇印を付けること。
2　前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

①　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
②　利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・　規定の主な内容 医学研究実施者及び医学研究関係者の利益相反の存在を明らかにした上で、医学研究に係る利益相反の適切な管理を行うことにより、研究対象者の人権擁護及び安全性を確保し、かつ、本学及び職員等の社会的信頼を得て医学研究の推進を図ることを目的とする。	
③　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年１２回

（注）前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

①　臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年２回
・研修の主な内容 臨床研究に関わる法律・規則・指針、臨床研究に際しての注意点など その他、eAPRINのe-learning受講による教育研修	

（注）前年度の実績を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

別紙「山梨大学専門研修プログラム」のとおり

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2　研修の実績

上記研修を受けた医師数	148人

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診　療　科	役　職　等	臨床経験年数	特　記　事　項
桐戸　敬太	内科	教授	38年	
犬飼　岳史	小児科	教授	38年	
川村　龍吉	皮膚科	教授	35年	
鈴木　健文	精神科	教授	28年	
中島　博之	外科	教授	36年	
波呂　浩孝	整形外科	教授	39年	
吉野　修	産婦人科	教授	28年	
柏木　賢治	眼科	教授	39年	
櫻井　大樹	耳鼻咽喉科	教授	27年	
三井　貴彦	泌尿器科	教授	32年	
木内　博之	脳神経外科	教授	42年	
大西　洋	放射線科	教授	37年	
小口　健史	麻酔科	病院教授	36年	
近藤　哲夫	病理診断科	教授	30年	
井上　克枝	臨床検査	教授	30年	
森口　武史	救急科	教授	26年	
百澤　明	形成外科	特任教授	30年	
谷口　直史	リハビリテーション科	講師	25年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

令和６年度　医療機器研修会実施状況

No	実施日	研修名称 研修内容	定期研修	随時研修	新規導入機器	特に安全使用に際して必要となる装置〔年２回必須〕							職種	対象者数	参加者数	備考
						人工心肺補助循環装置	人工呼吸器	血液浄化装置	除細動装置	閉鎖式保育器	診療用高エネルギー放射線発生装置	診療用放射線照射装置				
1	R6.7.3～R6.9.30	安全管理研修　前半 診療用放射線の安全利用のための従事者研修									○	○	医師 看護師 診療放射線技師	57名	57名	
2	R6.7.3～R6.9.30	安全管理研修　前半 生命維持管理装置と臨床工学部の役割				○	○	○					医師 看護師 臨床工学技士	1121名	1121名	
3	R6.8.27～9.12	新規医療機器勉強会 電動式低圧吸引機勉強会(ｻｰﾎﾞﾄﾞﾚｲﾝ・ｺﾝﾊﾟｸﾄ)			○								看護師 臨床工学技士	42名	42名	
4	R6.9.3	安全使用補助循環医療機器勉強会 ECMO勉強会(HCS-CFP)	○										臨床工学技士	4名	4名	
5	R6.9.10	安全使用のための勉強会 人工呼吸器勉強会(ｸﾞﾗﾌｨｯｸ)					○						臨床工学技士	18名	18名	
6	R6.9.12	新規医療機器勉強会 人工呼吸器勉強会(TCV-100K)		○									臨床工学技士	3名	3名	
7	R6.10.15～10.31	医療機器の安全使用のための研修 従事者に対する医療機器の安全使用のための研修									○	○	医師 看護師 診療放射線技師	57名	57名	
8	R6.11.1～R7.3.31	安全管理研修　後半 生命維持管理装置と臨床工学部の役割				○			○	○			医師 看護師 臨床工学技士	1109名	1109名	
9	R6.11.21	安全使用のための勉強会 勉強会(人工呼吸器　モナール)		○									看護師	15名	15名	
10	R6.11.25	非侵襲的陽圧換気療法 慢性呼吸器疾患看護	○										看護師	22名	22名	
11	R7.1.1～R7.3.31	安全管理研修　後半 生命維持管理装置と臨床工学部の役割				○	○	○	○	○			医師 看護師 臨床工学技士	1109名	1109名	
12	R7.2.20	機器安全使用勉強会 人工呼吸器勉強会(一般病棟向け)		○									看護師	21名	21名	
13	R7.2.26	新規医療機器勉強会 ART-70勉強会		○									臨床工学技士	11名	11名	
14	R7.2.26	新規医療機器勉強会 ART-70勉強会		○									医師 臨床工学技士	26名	26名	
15	R7.3.4	安全使用のための勉強会 ﾚｰｻﾞｰﾘｰﾄﾞ抜去勉強会		○									臨床工学技士	11名	11名	
16	R7.3.4	安全使用のための勉強会 ｴｷｼﾏﾚｰｻﾞ勉強会		○									臨床工学技士	5名	5名	
17	R7.3.11	安全使用のための勉強会 ﾘｸｾﾙ勉強会		○									臨床工学技士	15名	15名	

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4　医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

①　医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
②　業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
③　他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ●がんセンターセミナー：自施設および他施設の医療従事者に対し、がんに関する治療および治療支援に関連する内容で講演を行う。 ●薬薬連携レジメン勉強会：自施設および他施設（調剤薬局含む）の薬剤師に対し、がん薬物療法レジメンに関する内容で勉強会を行う。 ・研修の期間・実施回数 令和6年度研修（計5回） ●がんセンターセミナー：（1）令和6年11月28日（木）「乳がんの標準治療について」（オンラインライブ配信（zoom）１回・後日オンデマンド配信あり） ●薬薬連携レジメン勉強会：（2）令和6年5月22日(水)「制吐薬ガイドライン改定に伴う解説と

マネジメント」

（3）令和6年8月21日(水)「口腔内の異常と食事について」

（4）令和6年11月20日(水)「がん患者の疼痛管理について」

（5）令和7年3月13日(木)「保険調剤薬局より症例発表」

・研修の参加人数

●がんセンターセミナー：（1）研修の参加人数：ライブ参加61名　オンデマンド参加117名

●薬薬連携レジメン勉強会：（2）研修の参加人数：25名

（3）研修の参加人数：26名

（4）研修の参加人数：22名

（5）研修の参加人数：13名

（注）1　高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。
（注）2　「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

（様式第 5）

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	１．計画　②　現状
管理責任者氏名	病院長　木内　博之
管理担当者氏名	総務課長　笠井　秀二、医事課長　四氏　裕一、医療支援課長　根本　栄一、経理管理課長　萩原　正直

			保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医事課医療情報企画室	カルテ及び検査所見記録等は１患者１ＩＤで全て医事課医療情報企画室で一元管理している。 診療録は「院外に持ち出さないこと」と規定している。
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	医事課医療情報企画室	
		手術記録	医事課医療情報企画室	
		看護記録	医事課医療情報企画室	
		検査所見記録	医事課医療情報企画室	
		エックス線写真	医事課医療情報企画室	
		紹介状	医事課医療情報企画室	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医事課医療情報企画室	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	病院の管理及び運営に関する諸記録は、左の保管場所で保管管理している。
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	総務課 医療支援課 医事課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療の質・安全管理部	病院の管理及び運営に関する諸記録は、左の保管場所で保管管理している。
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療の質・安全管理部	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療の質・安全管理部	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療の質・安全管理部	

			保 管 場 所	管　理　方　法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	病院の管理及び運営に関する諸記録は、左の保管場所で保管管理している
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療の質・安全管理部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部 医療の質・安全管理部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部 経理管理課（未承認等の医薬品関連）	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療の質・安全管理部	病院の管理及び運営に関する諸記録は、左の保管場所で保管管理している。
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部 医療の質・安全管理部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療の質・安全管理部	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療の質・安全管理部	
		医療安全管理部門の設置状況	医療の質・安全管理部	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療の質・安全管理部	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	経理管理課 薬剤部	
		監査委員会の設置状況	総務課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療の質・安全管理部	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療の質・安全管理部	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療の質・安全管理部	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課	
		職員研修の実施状況	総務課 医療の質・安全管理部	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課 医療支援課	
		管理者が有する権限に関する状況	病院経営企画課	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	病院経営企画課	
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	病院経営企画課	

（注）「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

（様式第6）

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1．計画　　2．現状（○）
閲覧責任者氏名	病院長　木内　博之
閲覧担当者氏名	総務課長　笠井　秀二
閲覧の求めに応じる場所	総務課
閲覧の手続の概要 記録閲覧を求める者からの申立てにより、適否を判断し、閲覧場所を定めて閲覧させている。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延　0　件
閲覧者別	医師	延　0　件
	歯科医師	延　0　件
	国	延　0　件
	地方公共団体	延　0　件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第１条の11第１項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
・ 指針の主な内容： (1) 医療機関における安全管理に関する基本的考え方 ・医療安全の基本的考え方 (2) 医療機関に係る安全管理のための委員会その他医療機関内の組織に関する基本的事項 ・安全管理の体制を確保するために、安全管理委員会及び医療の質・安全管理部の設置 ・医療安全管理責任者及び医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者、説明と同意・カルテ記載管理責任者の設置 ・安全管理のための責任者（リスクマネジャー）を定め、病院の安全管理の体制確保に努める (3) 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針 ・安全体制の確保のために、職員研修の企画・実施 (4) 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ・「医療事故等発生報告書」「状況報告書」「インシデントレポート」の入力、報告及び対策 ・安全管理のためのマニュアルを整備し、安全管理委員会に届け出る (5) 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 ・事故発生時の対応マニュアルの整備および事故発生時の対応 (6) 医療従業者と患者との間の情報共有に関する基本方針（患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む。） ・患者への情報提供 (7) 患者からの相談への対応に関する基本方針 ・患者相談対応 (8) 医療行為の院内資格制度 ・CVC挿入術認定医制度 (9) その他医療安全推進のために必要な基本方針	
②　医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・　設置の有無（ (有)・無　） ・　開催状況：年　12　回 ・　活動の主な内容： (1) 病院の安全管理体制の整備に関すること。 (2) 病院の安全管理のためのマニュアルの整備に関すること。 (3) 病院の医療事故等の防止・発生時の対応及び医療事故調査制度（以下「調査制度」という。）に関すること。 (4) 病院で使用する医薬品の安全管理に関すること。 (5) 病院で使用する医療機器の安全管理に関すること。 (6) 病院の安全管理のための職員研修に関すること。 (7) 患者に重篤な障害が生じた事例の、原因の分析、改善策の立案・実施及び職員への周知に関すること。 (8) 立案した改善策の実施状況の調査及び見直しに関すること。 (9) 医療従事者と患者との情報の共有に関すること。 (10) 患者からの相談への対応に関すること。 (11) その他病院の安全管理に関すること。	
③　医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年　7　回
・　研修の内容（すべて）： (1) 安全管理研修（安全管理体制） (2) 安全管理研修(個人情報・プライバシー)	

(3) 安全管理研修会（ＧｏｏｇｌｅからＣＩＡまで）
(4) 安全管理研修会（精度の高い確認を目指した段階的取り組み）
(5) 安全の日研修（メモリアルデー）
(6) 医療の質向上のための研修会（ＰＸ推進＆ＥＸ向上）
(7) 安全活動コンテスト

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- 医療機関内における事故報告等の整備 （ ㊀有・無 ）
- その他の改善のための方策の主な内容：

(1) 病院内における安全管理に関する問題点の把握については、職員の他、実習中の学生も記入が可能なインシデントレポート及び想定外報告により覚知するほか、投書箱への患者や職員からの投書、患者相談窓口等での相談・苦情の内容、臨床倫理コンサルテーションへの相談内容、職員からの電話相談などから得られた情報を、毎週の医療の質・安全管理部会議で協議し、把握に努めている。インシデントレポートについては、医療の質・安全管理部員が全ての記載内容に目を通した上で、管理者が設けた基準に従い、部門のリスクマネジャー（RM）に対して、RM報告、状況報告書という名称での追加報告を求めるとととともに、医療の質・安全管理部員が聞き取りを行い、報告書を作成している。作成された報告のうち、管理者の定める水準で「状況報告書」に該当する、医療の質・安全管理部において改めて記載内容の確認と検討を行い、安全管理委員会やリスクマネジャー会議において報告を行うほか、医療の質・安全管理部における対策立案のための基礎的資料として活用する。

(2) 問題点の分析については、各RMが実施するインシデントの状況確認を踏まえて、診療科や部署内のカンファレンス等で発生原因や背景要因についての分析、検討を行い、「RM報告」「状況報告書」という形式で医療の質・安全管理部に報告される。医療の質・安全管理部では、部員がラウンド、聴取などを通じて収集した情報も踏まえながら、部署からのRM報告、状況報告書をもとに、必要に応じて、診療科や部署の関係者が参集するM&Mカンファレンスを開催して、組織レベルにおける原因や背景要因の分析を実施している。

(3) 上記の分析結果に基づき、医療の質・安全管理部において改善策の検討を行い、医療の質・安全管理部会議において協議を行う。必要に応じて医療の質・安全管理部が所掌する病院機能改善検討委員会の発令として各診療科や部門に対して改善策の検討と実施の通知を行い、病院長が委員長を務める病院機能改善検討委員会において進捗状況を確認し、改善策の検討と、実施の状況を把握している。患者安全に関する事項については、医療安全管理委員会においても協議を行い、それらの協議の結果を各部門のリスクマネジャーに報告し、各診療科、部門において周知を図っている。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の 11 第２項第１号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

①　院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
・ 指針の主な内容： (1) 基本方針 (2) 院内感染対策管理責任者の設置 (3) 委員会等の設置及び運用 (4) 感染制御のマニュアルの整備 (5) リンクドクター・リンクナースの配置 (6) 院内感染発生時の対応 (7) インフォームド・コンセント (8) 報告の義務 (9) 職員研修の実施 (10) 指針の閲覧に関する事項	
②　院内感染対策のための委員会の開催状況	年　12　回
・ 活動の主な内容： (1) 感染症アウトブレイクへの対応 (2) 個別セクションの監視と対策 (3) 感染対策の実施状況の調査・指導 (4) 感染対策に関する教育啓蒙活動 (5) 感染症サーベイランスの実施・評価 (6) 感染制御コンサルテーション (7) 職員への職業感染対策推進 (8) 感染対策に関する情報収集 (9) 感染性廃棄物処理の監視及び指導 (10) 感染対策マニュアルの更新	
③　従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年　3　回
・ 研修の内容（すべて）： (1)　感染対策、抗菌薬適正使用 (2)　感染対策、正しい検体採取のために (3)　手指衛生、個人防護具着脱演習	
④　感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備　（(有)・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 感染制御委員会・感染制御部会議・感染対策チーム会議における方策の検討・決定・実施 (2) 院内ラウンドの実施及び指導 (3) 感染対策チーム員を通じて重要事項を各部署へ周知・伝達するとともに、各部署からの意見・質問を収集した後、会議で検討し再度チーム会議において周知を行なった。 (4) 感染対策マニュアルの見直し・改訂	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の11第２項第２号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
②　　従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年　1　回

・　研修の主な内容：
E-learningの視聴および確認テストを実施した。
研修内容は
医薬品の取り扱いに関する基礎知識について
当院における医薬品に関する医療事故事例の解説
医薬品安全管理手順書について
医薬品安全管理手順書の順守状況確認ラウンドの結果報告
医薬品適応外使用／未承認新規医薬品の取り扱いに関する規定について
医薬品・医療機器等安全性情報報告制度について
医薬品副作用被害救済制度について

③　医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況

・　手順書の作成　　（　有・無　）
・　手順書の内訳に基づく業務の主な内容：
令和6年度医薬品安全管理手順書についてはチェックリストを改定し、院内各セクション（病棟、外来、中央診療部）を医薬品安全管理責任者、薬剤師GRM、看護師GRM、病棟責任者でラウンドを行った。ラウンド後に指摘事項のフィードバックを行い改善状況の報告を受けた後、再度ラウンドし改善状況を確認した。

④　医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

・　医薬品に係る情報の収集の整備　　（　有・無　）
・　未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：2024年度申請無

・　その他の改善のための方策の主な内容：
薬剤部医薬品情報室が中心となり、薬剤部からのお知らせ（115報/R6年度）DI・BOX（53報／R6年度）および新採用医薬品情報（20報／R6年度）を発行している。
主に当院採用医薬品に関する医薬品情報（添付文書の改訂、販売中止、出荷制限、識別記号変更など安全に関する情報を中心に）を提供している。
緊急安全性情報および安全性速報についてもこの媒体を使用し適宜解説などを加えて情報を提供している。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の11第２項第３号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医療機器安全管理責任者の配置状況	(有)・無
②　従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年17回
・　研修の主な内容： 使用方法に関する事項、保守点検に関する事項、不具合等が発生した場合の対応に関する事項など	
③　医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・　医療機器に係る計画の策定　（(有)・無　） ・　機器ごとの保守点検の主な内容： 外観検査、機能条件検査、機械的検査、電気的検査、安全性検査、消耗部品交換など	
④　医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・　医療機器に係る情報の収集の整備　（(有)・無　） ・　未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：2025年度申請無 ・　その他の改善のための方策の主な内容： １．インシデント事例を踏まえた改善策の検討 ２．上位会議（安全管理委員会）への事例報告 ３．上位会議（安全管理委員会）での報告に基づいた更なる検討 ４．学内各会議（主要会議）への事例報告 ５．リスクマネージメントニュース等による院内周知 ６．医療機器安全小委員会による医療機器の安全性の確認	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第９条の２０の２第１項第１号から第１３号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	(有)・無

・責任者の資格（(医師)・歯科医師）
・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況

管理者が指名した副病院長を医療安全管理責任者及び安全管理委員会委員長として配置し、その下に医療の質・安全管理部を設置、更に医療の質・安全管理部の組織として、医薬品安全小委員会、医療機器安全小委員会、診療用放射線安全管理小委員会を設け、医療安全管理体制を構築し、それら医療安全に関する業務について、各責任者からの月1回の報告機会を設けて統括している。

② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有)（ 7 名）・無

③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況

・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況

PMDA メディナビの情報提供、PMDA ホームページ、日本医療機能評価機構ホームページ、企業のホームページ、MR、郵送、FAX の手段で情報を入手し、院内に周知が必要と考えられる医薬品情報は、薬剤部でＤＩ－ＢＯＸなどの情報誌として分かりやすい形に編集し、院内各所に配布すると共に、病院内掲示板及び病院端末イントラネットに掲示し、ネット上ではバックナンバーも容易に参照できる体制となっている。重大な副作用に関する情報等、医薬品に関する重大な情報に関しても過去の処方歴の調査を行い、医師個人宛に情報を提供する体制を整えている。
院内に通知した内容は、薬事委員会で報告し、病院運営委員会、医長・師長会で報告事項として周知した。病院全体に提供すべき重大な情報については、既読者リストを貼付し、情報を読んだ人の氏名を記載してもらい返送を依頼し、未読者に連絡した。

・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況

医薬品安全管理責任者の責務に関する内規を基に、未承認等の医薬品の使用及び必要性の確認・指導を行った。また、医薬品適応外使用に関する使用及び必要性の確認・指導を行った。
医薬品安全管理手順書について、医薬品安全管理委員会で見直し・検討を行った。また、医薬品安全管理手順書どおり業務が行われているか、手順書改訂後に院内ラウンドを行い改善点のフィードバックを行った。更に改善状況の報告を受け改善後、確認のラウンドを行った。

・担当者の指名の有無 (有)・無）

・担当者の所属・職種：

（所属： 薬剤部, 職種 副部長 ） （所属： 薬剤部 , 職種 薬剤師 GRM ）

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	㊤・無
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無　（ ㊤・無 ） ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：全診療科を対象として、毎月、各診療科入院患者５件の診療録を無作為に抽出し、診療録内容及び同意書類の記載内容が規程等に基づき作成されたチェック票（評価基準）により、インフォームド・コンセントの遵守状況を確認している。評価基準を点数化しており、点数が継続的に低位なものについては各診療科に対してフィードバックを行い指導している。	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	㊤・無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 全診療科を対象として、毎月、各診療科入院患者５件の診療録を無作為に抽出し、診療録内容及び同意書類の記載内容が規程等に基づき作成されたチェック票（評価基準）により、遵守状況の確認を実施している。評価基準を点数化しており、点数が継続的に低位なものについては各診療科に対してフィードバックを行い指導している。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	㊤・無
・所属職員：専従（ 5）名、専任（ 0）名、兼任（ 15）名 うち医師：専従（ 1）名、専任（ 0）名、兼任（ 2）名 うち薬剤師：専従（ 1）名、専任（ 0）名、兼任（ 0）名 うち看護師：専従（ 2）名、専任（ 0）名、兼任（ 2）名 （注）報告書を提出する年度の 10 月１日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： (1) 安全管理体制の構築 (2) 医療安全に関する職員への教育・研修の実施 (3) 医療事故を防止するための情報収集、分析、対策立案、フィードバック、評価 モニタリングの具体例（オカレンス報告、転倒・転落モニタリング、医療安全管理指針クイズ等、高難度新規医療技術、ロボット支援下内視鏡手術症例の合併症） (4) 医療事故への対応 ※　平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※　医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（　10 件）、及び許可件数（　10 件）

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ (有)・無　）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ (有)・無　）

・活動の主な内容：

(1) 診療科より申請された高難度新規医療技術申請書の受付・内容確認

(2) 高難度新規医療技術評価委員会への審査依頼

(3) 高難度新規医療技術評価委員会の審査結果を踏まえ部門としての使用の可否の決定

(4) 使用後のモニタリングの実施、規程の遵守状況等を確認のうえ管理者へ報告

(5) 有害事象発生時の医療行為継続可否の検討

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ (有)・無　）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ (有)・無　）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（　0 件）、及び許可件数（　0 件）

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ (有)・無　）

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ (有)・無　）

・活動の主な内容：

(1) 診療科より申請された未承認新規医薬品使用申請書の受付・内容確認

(2) 未承認新規医薬品評価委員会への審査依頼

(3) 未承認新規医薬品評価委員会の審査結果を踏まえ部門としての使用の可否の決定

(4) 使用後のモニタリングの実施、規程の遵守状況等を確認のうえ管理者へ報告

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ (有)・無　）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無　（ (有)・無　）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年　343　件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年　181　件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

医事課電算システムから死亡情報を抽出し、医療の質・安全管理部において入院死亡例を全数、把握している。加えて、オカレンス報告として心肺蘇生の実施の報告を求めており、外来症例を含めて死亡に至ったか否かの確認を行なっている。安全管理委員会において、全死亡例について死因等の確認結果情報を管理者に対し報告するとともに法医学者が全数をスクリーニングし検証を行っている。また、主治医等により確認した予期せぬ死亡該当事例の是非についても報告と検証を行っている。管理者が定める水準以上の発生事象の状況等については、インシデント報告をもとに該当事例のスクリーニングを行い、管理者に対し報告を行うとともに、原因分析及び改善策について検討を行っている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（ ㊤（病院名：　札幌医科大学附属病院　）・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ ㊤（病院名：　金沢大学附属病院　）・無）

・技術的助言の実施状況

1. 医薬品・未承認新規医薬品等

医療法施行規則第９条の 20 の 2 の 3 ハに定める「医薬品の安全使用のための業務に資する医薬品に関する情報の整理、周知及び当該周知の状況の確認と未承認等の医薬品の使用に関し、当該未承認等の医薬品の使用の状況の把握のための体系的な仕組みの構築並びに当該仕組みにより把握した未承認等の医薬品の使用の必要性等の検討の状況の確認、必要な指導及びこれらの結果の共有を適切に実施するための担当者の定め」については急ぎ明文化し、病棟薬剤師等のさらなる関与に向けた人員増や業務内容の見える化を進めること。

医薬品安全使用の妥当性評価については、医薬品のリスクに応じた院内基準を策定されるか、それに代わるトリアージの仕組みを構築すること。

2. 高難度新規医療技術

有害事象が発生した際に、当該技術に関する必要報告数を見直す仕組みの設置が望まれる。

全てプロトコール毎の審査ということだったが、例えば極めて頻度の低い手術等、ケースによっては症例毎の審査がふさわしい場合があるのではないか。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況
・体制の確保状況 患者等相談窓口を病院外来ホールに設置するとともに、活動の趣旨、設置場所、担当者等及び対応時間を記載したものを病院玄関ホール入口に掲示している。各相談への対応についても運営内規の趣旨を説明し，対応願うこととしている。なお、患者のプライバシー保護の観点から、個室を設け相談内容により対応している。また、電話相談、投書箱の設置、インターネット相談を実施し、相談窓口以外の相談にも対応している。

⑫ 職員研修の実施状況
・研修の実施状況 病院職員は年間 2 回以上の受講を義務付けており、受講後は内容に関する小テストを活用し効果測定を行っている。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
・研修の実施状況 ・管理者 公益財団法人日本医療機能評価機構 「2024 年度特定機能病院管理者研修（継続）　令和 7 年 1 月 17 日」 ・医療安全管理責任者 公益財団法人日本医療機能評価機構 「2024 年度特定機能病院管理者研修（継続）　令和 7 年 2 月 3 日」 ・医薬品安全管理責任者 公益財団法人日本医療機能評価機構 「2024 年度特定機能病院管理者研修（継続）　令和 7 年 2 月 3 日」 ・医療機器安全管理責任者 公益財団法人日本医療機能評価機構 「2024 年度特定機能病院管理者研修（継続）　令和 6 年 11 月 26 日」

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況
・第三者による評価の受審状況 令和 3 年 11 月 29 日～12 月 1 日において日本医療機能評価機構による病院機能評価＜3rdG:Ver2.0＞を受審 ・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況 病院ホームページにて公開している。 ・評価を踏まえ講じた措置 課題が残った改善項目を抽出し、毎月開催されている病院機能改善検討委員会にて各部署に指導し、その改善項目の進捗状況をモニタリングしている。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第７条の２の２第１項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

・ 基準の主な内容

１．医師免許を有し、医学、医療及び経営に関し高い識見を有する者

２．以下のいずれかの業務に従事した経験を有し、医療安全についての十分な経験をもとに指導力を発揮し、患者の安全を第一に高度な医療安全の管理体制を確保できる者

①医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務

②医療安全管理委員会の構成員としての業務

③医療安全管理部門における業務

④その他上記に準じる業務

３．本学附属病院または本学以外の病院で以下の経験を有し、病院の管理運営に必要な経験と能力をもとにガバナンスを発揮できる者

①病院長又は副病院長の経験

②診療科長又は中央診療施設等の長の経験

４．医学教育、医学研究及び高度医療に携わった経験を有し、教育・研究・診療に必要な資質・能力を有している者（医学系教授の経験を有する者が望ましい）

５．山梨県内の医療環境の改善に努めた経験を有し、地域医療、救急医療、感染症対策及び高度医療を担う医療機関として、県や山梨県医師会等関係機関との連携のもとその維持及び発展に貢献できる者

６．附属病院の将来に関して、明確なビジョンと強いリーダーシップをもってその発展に貢献できる者

・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ ㊤・無 ）

・ 公表の方法：病院HPにて掲載

規則第７条の３第１項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	㊤・無

・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ ㊤・無 ）

・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ ㊤・無 ）

・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ ㊤・無 ）

・ 公表の方法：病院HPにて掲載

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長（〇を付す）	選定理由	特別の関係
片田　晋	山梨大学	〇	学長が指名する理事	㊤・無

小泉　修一	山梨大学		医学域長	㊧・無
大塚　稔久	山梨大学		医学部医学科長	㊧・無
石原　昭	山梨大学		学長が指名する医学部附属病院副病院長	㊧・無
杉田　俊江	山梨大学		附属病院看護部長	㊧・無
鈴木　昌則	山梨県医師会		学外の有識者（県医師会長として豊富な知見を有する）	有・㊨
清水　康邦	山梨県福祉保健部		学外の有識者（県の医療に係る豊富な知見を有する）	有・㊨
上野　祐司	山梨大学		学長が指名する医学部臨床系教授	㊧・無
中島　博之	山梨大学		学長が指名する医学部臨床系教授	㊧・無

規則第９条の２３第１項及び第２項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	（有）・無

・合議体の主要な審議内容

① 山梨大学医学部附属病院運営委員会
病院の運営に関する重要事項を審議

② 山梨大学医学部附属病院診療科長会
病院の教員及び看護部長人事並びに予算に関する事項を審議

・審議の概要の従業者への周知状況
・附属病院イントラホームページへの掲載
・会議終了後、資料を各診療科等で回覧

・合議体に係る内部規程の公表の有無（　有・（無）　）
・公表の方法

・外部有識者からの意見聴取の有無（（有）・無　）
山梨大学医学部附属病院運営委員会においては、「委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる」と規定されている。

合議体の委員名簿

① 山梨大学医学部附属病院運営委員会

No	氏名	委員長（〇を付す）	職種	役職
1	木内　博之	〇	医師	病院長
2	波呂　浩孝		医師	副病院長
3	川村　龍吉		医師	副病院長
4	中島　博之		医師	副病院長
5	市川　大輔		医師	副病院長
6	杉田　俊江		看護師	副病院長
7	桐戸　敬太		医師	副病院長
8	石原　昭		事務職員	副病院長
9	荒神　裕之		医師	ゼネラルリスクマネージャー

10	土屋　敦紀		医師	消化器内科 教授
11	佐藤　明		医師	循環器内科 教授
12	副島　研造		医師	呼吸器内科 教授
13	土屋　恭一郎		医師	糖尿病・内分泌内科 教授
14	中島　歩		医師	腎臓内科 教授
15	中込　大樹		医師	リウマチ膠原病内科 教授
16	上野　祐司		医師	神経内科 教授
17	犬飼　岳史		医師	小児科 教授
18	鈴木　健文		医師	精神科 教授
19	吉岡　秀幸		医師	脳神経外科 准教授
20	百澤　明		医師	形成外科 教授
21	小口　健史		医師	麻酔科 教授
22	吉野　修		医師	産婦人科 教授
23	三井　貴彦		医師	泌尿器科 教授
24	柏木　賢治		医師	眼科 教授
25	櫻井　大樹		医師	頭頸部・耳鼻咽喉科 教授
26	大西　洋		医師	放射線治療科 教授
27	市川　新太郎		医師	放射線診断科 教授
28	上木　耕一郎		歯科医師	歯科口腔外科 教授
29	森口　武史		医師	救急科 教授
30	近藤　哲夫		医師	病理診断科 教授
31	石黒　浩毅		医師	遺伝子疾患診療科 教授
32	井上　克枝		医師	検査部長
33	奥田　靖彦		医師	分娩部長
34	針井　則一		医師	総合診療部長
35	望月　修一		医師	臨床研究連携推進部長
36	飯嶋　哲也		医師	医療チームセンター長
37	前川　伸哉		医師	肝疾患センター長
38	荒木　拓次		医師	ＩＶＲセンター長
39	加賀　佳美		医師	てんかんセンター長
40	小林　美亜		その他	病院経営管理部長

41	井上　　修		医師	感染制御部長
42	鈴木　貴明		薬剤師	薬剤部長
43	池川　博昭		その他	放射線技術部長
44	市川　二郎		医師	地域医療連携センター長
45	松原　寛知		医師	業務支援センター長
46	川端　健一		医師	臨床実習センター長
47	矢ヶ崎　英晃		医師	臨床研修センター長
48	加賀　重亜喜		医師	シミュレーションセンター長
49	川井田　博充		医師	医療スタッフ研修センター長
50	榎本　信幸		医師	東部地域医療教育センター長
51	小泉　修一		医師	医学域長

②山梨大学医学部附属病院診療科長会

No	氏名	委員長 （〇を付す）	職種	役職
1	小泉　修一		医師	医学域長
2	木内　博之		医師	病院長
3	土屋　敦紀		医師	消化器内科長（１内）
4	佐藤　　明		医師	循環器内科長（２内）
5	副島　研造		医師	呼吸器内科長（２内）
6	土屋　恭一郎		医師	糖尿病・内分泌内科長（３内）
7	中島　　歩		医師	腎臓内科長
8	中込　大樹		医師	リウマチ膠原病内科長
9	上野　祐司		医師	神経内科長
10	桐戸　敬太		医師	血液・腫瘍内科長
11	犬飼　岳史		医師	小児科長
12	鈴木　健文		医師	精神科長
13	川村　龍吉		医師	皮膚科長
14	百澤　　明		医師	形成外科長
15	市川　大輔		医師	消化器外科長、乳腺・内分泌外科長（１外）
16	中島　博之		医師	心臓血管外科長、呼吸器外科長、小児外科長（２外）

17	波呂　浩孝		医師	整形外科長
18	吉岡　秀幸		医師	脳神経外科長
19	小口　健史		医師	麻酔科長
20	吉野　修		医師	産婦人科長
21	三井　貴彦		医師	泌尿器科長
22	柏木　賢治		医師	眼科長
23	櫻井　大樹		医師	頭頸部・耳鼻咽喉科長
24	大西　洋		医師	放射線治療科長
25	市川　新太郎		医師	放射線診断科長
26	上木　耕一郎		歯科医師	歯科口腔外科長
27	森口　武史		医師	救急科長
28	近藤　哲夫		医師	病理診断科長
29	石黒　浩毅		医師	遺伝子疾患診療科長
30	井上　克枝		医師	検査部長
31	針井　則一		医師	総合診療部長
32	望月　修一		医師	臨床研究連携推進部長
33	小林　美亜		その他	病院経営管理部長
34	鈴木　貴明		薬剤師	薬剤部長
35	杉田　俊江		看護師	看護部長

規則第１５条の４第１項第１号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ (無) ）
・ 公表の方法

・ 規程の主な内容

山梨大学医学部附属病院規程において、「病院長は、病院の管理運営を総括する。」と、その権限が規定されている。また、国立大学法人山梨大学会計規則及び国立大学法人山梨大学予算細則において、医学部附属病院の予算責任者として規定されている。

・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

【職名】副病院長
【役割】病院の管理運営を迅速、かつ円滑に行うため、病院長の指示に基づき、病院長を補佐する。

【職名】病院長補佐
【役割】病院長の命を受け診療及び管理運営に関し、病院長の指定する事項について、その担当する副病院長を支援するとともに、当該事項の担当部署に助言を行う。また、病院長の命を受け、他の分野においても当該担当副病院長を支援する。

【職名】病院長特別補佐
【役割】病院長の命を受け病院の診療及び管理運営に関し、病院長の指定する次の事項について、その担当する副病院長を支援し、当該事項の担当部署に助言を行う。
(1) 患者サービスに関すること
(2) 看護部の業務に関すること
(3) 薬剤治験に関すること
(4) 山梨県感染症対策に関すること
(5) その他病院長が必要と認めること

【職名】病院経営管理部長
【役割】病院の適切な経営管理に資するための事項の企画、立案、検証を行うとともに、各種委員会及び関係部局等との連絡調整にあたる。

・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

病院管理者向け研修会を開催し、病院執行部を担う人材の育成を行っている。また、事務部職員についても病院専門職員研修会等に参加させ、病院マネジメントを担う人材の育成を継続的に行っている。

規則第１５条の４第１項第２号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	（有）・無

・監査委員会の開催状況：年　２　回

・活動の主な内容：

(1)　医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、高難度新規医療技術部門長及び医療放射線安全管理責任者の業務に関する監査。

(2)　医療に係る安全管理の業務に関する監査。

(3)　その他委員が必要と認める病院業務に関する監査。

・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（（有）・無　）

・委員名簿の公表の有無（（有）・無　）

・委員の選定理由の公表の有無（（有）・無　）

・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（（有）・無　）

・公表の方法：

大学ホームページ上で公表

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長（〇を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
矢野　真	他団体医師	〇	臨床経験や医療安全に係る専門知識が豊富であるため。	有・（無）	1
甲光　俊一	弁護士		弁護士として医療過誤事例に携わっており、専門知識が豊富なため。	有・（無）	1
望月　智	市長		地方行政の長として、住民の意見の集約する職にあり、医療を受ける者の代表として意見を述べることができるため。	有・（無）	2

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第１５条の４第１項第３号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

法人の業務の適正かつ効率的な運営を図るとともに、会計経理の適正を期することを目的として、定期監査及び臨時監査を実施している。

- 専門部署の設置の有無（ 有 ・ 無 ）
- 内部規程の整備の有無（ 有 ・ 無 ）
- 内部規程の公表の有無（ 有 ・ 無 ）
- 公表の方法

規則第１５条の４第１項第３号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況

・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況

国立大学法人の経営に関する重要事項を審議する機関として、経営協議会を置き、下記について審議し、病院業務並びに経営状態について監督している。

(1) 中期目標についての意見に関する事項のうち、経営に関するもの
(2) 中期計画に関する事項のうち、経営に関するもの
(3) 学則(経営に関する部分に限る。)、会計規程、役員に対する報酬及び退職手当の支給の基準、職員の給与及び退職手当の支給の基準その他の経営に係る重要な規則の制定又は改廃に関する事項
(4) 予算の作成及び執行並びに決算に関する事項
(5) 組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項
(6) その他経営に関する重要事項

・ 会議体の実施状況（ 年 ６回 ）

・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ (有)・無 ）（ 年 ６回 ）

・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ (有)・無 ）

・ 公表の方法

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：国立大学法人山梨大学経営協議会

会議体の委員名簿

No	氏名	所属	委員長 （○を付す）	利害 関係
１	中村　和彦	学長	○	有
２	黒澤　　尋	理事（企画・内部統制担当）		有
３	奥田　　徹	理事（教学担当）		有
４	茅　　暁陽	理事（学術研究・グローバル推進担当）		有
５	髙見 太也	理事（総務・労務・情報担当）		有
６	市川　　満	理事（財務・施設・産学官連携担当）		有
７	木内　博之	理事（医療担当）		有
８	石寺　淳一	山梨県副知事		無
９	進藤　　中	株式会社山梨中央銀行相談役、 甲府商工会議所会頭		無
10	山本　健慈	大阪観光大学理事長、 元国立大学協会専務理事、元和歌山大学学長		無

11	山中　正竹	一般財団法人全日本野球協会会長		無
12	窪田　　淳	甲府市副市長		無
13	野田　嘉明	全学同窓会会長、 医療法人のだ内科クリニック理事長		無
14	吉岡　俊昭	株式会社山梨放送常務取締役		無
15	齊藤　貴子	株式会社シャトレーゼホールディングス代表取締役社長		無
16	佐々木　宏明	山梨トヨタ自動車株式会社代表取締役社長		無

（注）　会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第１５条の４第１項第４号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有 ・ 無 ）
・通報件数（年　０　件）
・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ 有 ・ 無 ）
・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有 ・ 無 ）
・周知の方法 職員研修会

（様式第 7）

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1　果たしている役割に関する情報発信

①　果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要	

2　複数の診療科が連携して対応に当たる体制

①　複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	（有）・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 脳卒中・心臓病等総合支援センター、子宮内膜症ケアセンター、リウマチ膠原病センター、アレルギーセンター、遺伝子疾患診療センター、IVRセンター、てんかんセンター、産前産後ウェルビーイングセンター、脊椎脊髄センターといった診療機能別センターを設置し、複数の診療科が連携し高度な医療を提供する体制を整備している。	